

第5期みやぎ観光戦略プランの  
令和5年度の実施状況について  
(みやぎ観光創造県民条例第12条に基づく報告)

令和6年6月

宮城県経済商工観光部

# 目 次

1	本報告書について	1
2	観光王国みやぎの実現とみやぎの観光の再生に向けた取組	2
3	「第5期みやぎ観光戦略プラン」の数値目標について	4
4	各数値目標の推移	5
5	令和5年度事業の実施状況	6
	回復戦略 感染症により落ち込んだ観光需要の回復	7
	成長戦略1 魅力あふれる観光地づくり	22
	成長戦略2 観光産業の体制強化	43
	成長戦略3 受入環境の整備促進	53
	成長戦略4 戦略的な誘客プロモーション	59
6	基本計画の実施状況の検証	76



## 1 本報告書について

県は、みやぎ観光創造県民条例(平成23年宮城県条例第8号。以下「条例」という。)第12条第1項の規定により、観光振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進し、観光王国みやぎの実現を図るため、条例第11条各号に掲げる基本方針を踏まえ、観光振興に関する基本的な計画を定めるものとしている。また、知事は、毎年度、基本計画の実施状況を検証し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならないこととされている。

この報告書は、条例第12条第3項の規定により、毎年度議会に提出することとされている年次報告である。

参考：みやぎ観光創造県民条例(平成23年宮城県条例第8号) (抜粋)

(施策の基本方針)

第11条 県は、次に掲げる基本方針に基づき、観光振興に関する施策を積極的に推進するものとする。

- (1) 魅力あふれる観光地づくり、おもてなしの心の向上等の観光王国みやぎの実現のための取組を、会議の設置等県民総参加による運動として進めること。
- (2) 恵まれた自然、歴史、文化、景観、食、温泉その他の観光資源の保全、創造及び活用の取組への支援及び促進を図り、国際競争力及び国内競争力の高い魅力ある観光地の形成を図ること。
- (3) 観光に関する施設の整備、道路の整備、交通機能の充実その他の観光に関する社会基盤の整備を促進すること。
- (4) 観光事業者への必要な情報提供等の支援、観光事業者相互の連携及び観光事業者と産業観光など地域産業との連携の促進等により観光産業の競争力を強化することで、観光事業者の育成及び経営基盤の強化を図ること。
- (5) 観光事業に従事する者等の知識及び能力の向上、観光ボランティア等の育成その他の観光振興に寄与する人材の育成に関する取組を促進すること。
- (6) 大学等が観光振興に寄与する人材の育成等のために実施する教育活動へ協力すること。
- (7) 外国人観光客の受入環境の整備、市町村、近隣の県等との広域的な連携による取組その他の多様な誘客活動により、東アジアをはじめ海外からの観光客を積極的に誘致し、国際観光の振興及び国際相互交流を促進すること。
- (8) 多様な媒体を活用した国内外への戦略的な観光情報の発信その他の情報発信の充実のために必要な施策を実施すること。
- (9) グリーンツーリズムの更なる推進、スポーツツーリズム、コンテンツツーリズム、ヘルスツーリズム、エコツーリズム等の新しい観光分野の開拓、会議、展示会、映画撮影等の誘致及び観光客の受入態勢の整備等の取組を充実すること。
- (10) 県民等が主体となって行う食、文化、音楽、芸術等に関するイベント等との連携を図るとともに、これらのイベント等に対する必要な支援を行うこと。
- (11) 高齢者、障がい者及び外国人をはじめすべての観光客が安全に、安心して、快適に観光を楽しむことができる態勢の整備を促進すること。
- (12) 観光地における生活環境の美化並びに良好な景観の保全及び形成を促進するために必要な支援を行うこと。
- (13) 県民総参加による観光振興に取り組む意識を高めるため、観光に関する広報活動、教育活動等を積極的に実施すること。

(基本計画)

第12条 知事は、観光振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進し、観光王国みやぎの実現を図るため、前条に掲げる基本方針を踏まえ、観光振興に関する基本的な計画(以下「基本計画」という。)を定めるものとする。

2 知事は、基本計画を定めるに当たっては、市町村、県民等の意見が反映されるよう必要な措置を講ずるとともに、宮城県産業振興審議会に諮問するものとする。

3 知事は、毎年度、基本計画の実施状況を検証し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならない。

## 2 観光王国みやぎの実現とみやぎの観光の再生に向けた取組

県では、令和4年10月から令和7年3月までを計画期間とする基本計画「第5期みやぎ観光戦略プラン」(令和4年9月策定)を定め、条例の基本方針を踏まえながら、新・宮城の将来ビジョンの分野別計画として、5つの観光戦略プロジェクトに基づき、幅広く各種施策を実施している。

# 第5期みやぎ観光戦略プラン

みやぎ観光創造県民条例第12条第1項に掲げる基本計画

## 新・宮城の将来ビジョンの分野別計画

宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興

## 5つの観光戦略プロジェクト

### 回復戦略

感染症により落ち込んだ観光需要の回復

- (1)安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり
- (2)回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見

### 成長戦略1

魅力あふれる観光地づくり

- (1)特色ある地域資源の発掘・磨き上げと観光コンテンツの充実
- (2)観光に対する地域住民や旅行者の意識醸成
- (3)震災の経験を生かした復興ツーリズムや教育旅行の展開

### 成長戦略2

観光産業の体制強化

- (1)地域経済循環力の強化
- (2)地域を支える観光人財<sup>じんざい</sup>の育成・確保

### 成長戦略3

受入環境の整備促進

- (1)旅行者の安全・安心確保
- (2)多様化する旅行者の受入環境整備

### 成長戦略4

戦略的な誘客プロモーション

- (1)旅行者のニーズやターゲットに応じた戦略的プロモーション
- (2)東北各県や東北観光推進機構等と一体となった広域周遊観光の促進

## 5つの観光戦略プロジェクトの具体的な取組

### 回復戦略：感染症により落ち込んだ観光需要の回復

- (1) 安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり
  - 観光地として選ばれるための安全・安心の対策とその見える化の取組
  - 入国制限緩和を見据えたインバウンドへの取組
- (2) 回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見
  - 社会経済活動の回復フェーズや新たな旅のスタイルに対応した取組の推進
  - アウトドアコンテンツをはじめとする地域の魅力の再発見と旅行者の受入体制の構築
  - 交流人口に加え、関係人口の創出・拡大の取組

### 成長戦略1：魅力あふれる観光地づくり

- (1) 特色ある地域資源の発掘・磨き上げと観光コンテンツの充実
  - 食・自然・歴史・文化等の地域資源の発掘・磨き上げ
  - サステナブルツーリズム（持続可能な観光）の推進
  - 地域の独自性を売りにした体験型観光プログラムやデジタルを活用した観光コンテンツの造成
- (2) 観光に対する地域住民や旅行者の意識醸成
  - 地域住民の郷土への誇りや愛着の醸成  
（観光客と地域住民の交流促進、おもてなし講座の開催、地域におけるふるさと教育の推進）
  - 旅行者や地域住民の自然環境の保全や旅行マナー等に関する意識の醸成
- (3) 震災の経験を生かした復興ツーリズムや教育旅行の展開
  - 震災の教訓を伝承するとともに、防災・減災学習など学びの機会の創出
  - 震災を契機とした地域との関係性の継続・深化

### 成長戦略2：観光産業の体制強化

- (1) 地域経済循環力の強化
  - 農林水産業などの他産業との連携強化やコト消費への転換、スポーツ、コンテンツツーリズム等や文化・音楽、芸術イベント等との連携
  - 地域の価値向上や空間的<sup>じんざい</sup>魅力の創出による観光地の高付加価値化
- (2) 地域を支える観光人財の育成・確保
  - 観光産業を牽引する「人財」の育成と活躍できる環境の整備
  - 高等学校（観光科・商業科）や大学等との連携による未来を担う観光人財の育成

### 成長戦略3：受入環境の整備促進

- (1) 旅行者の安全・安心確保
  - 災害や感染症等発生時の宿泊施設等の対応力・態勢強化
  - 旅行者への情報伝達態勢の整備
- (2) 多様化する旅行者の受入環境整備
  - 多言語化やキャッシュレス等の非接触化の促進、AI技術等による観光サービスの機能強化
  - ウィズコロナ・ポストコロナに適応したビジネスモデルの転換の促進
  - 地域内・広域周遊のための二次交通の利便性向上も含めた観光交通機能の強化
  - 安全性に配慮した自然公園施設等の整備

### 成長戦略4：戦略的な誘客プロモーション

- (1) 旅行者のニーズやターゲットに応じた戦略的プロモーション
  - デジタルマーケティングを活用したプロモーションの実施
  - 首都圏・東アジアの重点市場などのターゲットに応じた誘客プロモーション
  - 安全・安心対策の更なる可視化と確実な情報発信
- (2) 東北各県や東北観光推進機構等と一体となった広域周遊観光の促進
  - 三陸沿岸道の全線開通や世界文化遺産などを生かした広域観光ルートの充実
  - 仙台空港24時間化を契機とした航空路線誘致等による中部以西等から東北への誘客促進

### 3 「第5期みやぎ観光戦略プラン」の数値目標について

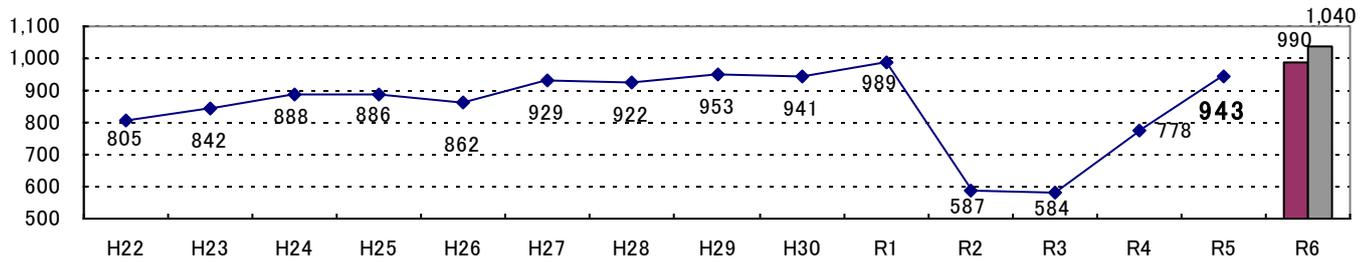
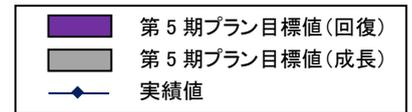
「第5期みやぎ観光戦略プラン」では、新型コロナウイルス感染症拡大により落ち込んだ観光需要を取り戻すべく、感染拡大前の水準までの回復を目指す回復目標を設定したほか、ポストコロナの観光需要を見据え、取組の加速化を図るために、成長目標を設定した。

#### <第5期みやぎ観光戦略プランの数値目標>

項 目	令和6年目標値	
	回復目標	成長目標
①宿泊観光客数	990 万人泊	1,040 万人泊
②外国人観光客宿泊者数	50 万人泊	70 万人泊
③観光消費額（観光庁共通基準による観光客入込統計）	3,990 億円	4,200 億円

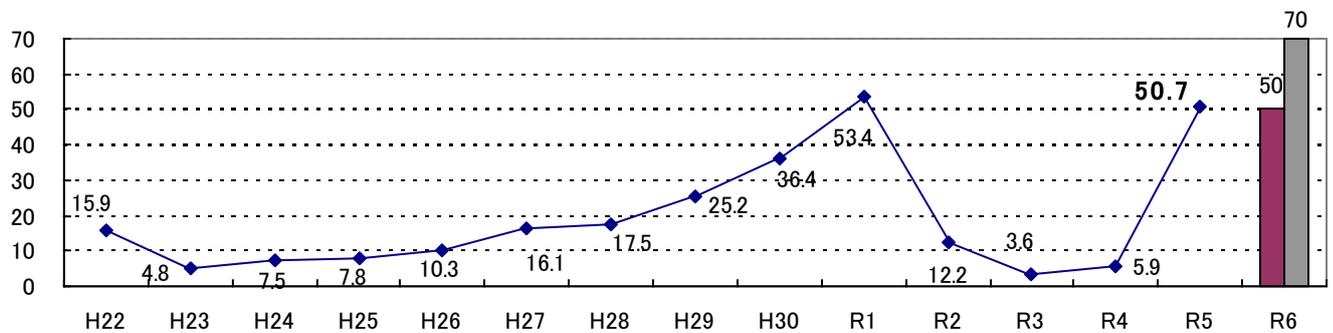
#### 4 各数値目標の推移

① 宿泊観光客数（単位：万人泊）



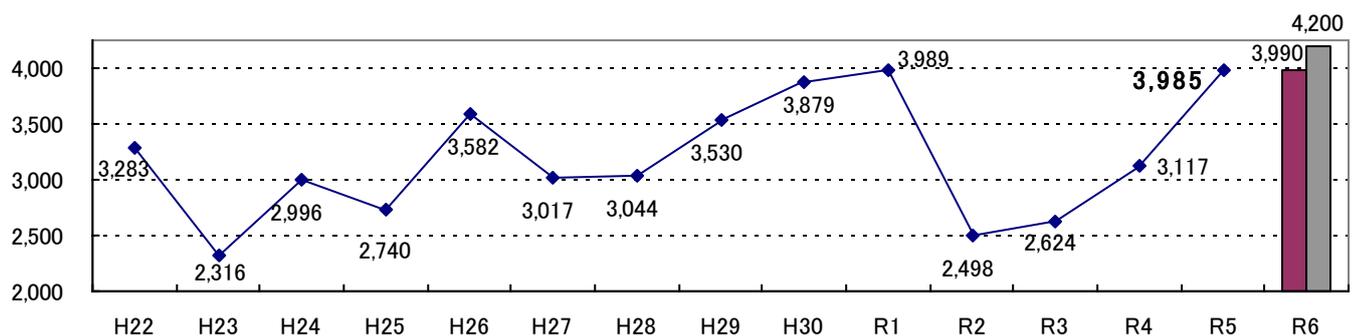
令和5年の「宿泊観光客数」は 943 万人泊で、前年との比較では 165 万人泊の増加 (21.2%の増) となった。

② 外国人観光客宿泊者数（単位：万人泊）



令和5年の「外国人観光客宿泊者数」は 50.7 万人泊で、前年との比較では 44.8 万人泊の増加 (759.3%の増) となった。

③ 観光消費額（単位：億円）



令和5年の「観光消費額」は 3,985 億円で、前年との比較では 868 億円の増加 (27.8%の増) となった。

※出典：①—令和5年観光統計概要の速報値

②—観光庁宿泊旅行統計調査(従業者数 10 人以上の施設)の速報値

③—観光庁観光入込客統計に関する共通基準

## 5 令和5年度事業の実施状況

東日本大震災から13年目となった令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行、仙台国際空港国際線定期便の順次再開により、訪日旅行者の増加や国内観光客の移動が活発になるなど、新型コロナウイルス感染症で落ち込んだ観光需要が大幅に回復した年であった。

このような中で、県としては、第5期みやぎ観光戦略プランの基本方針に基づき、観光需要の早期回復に向けた取組や、持続可能な観光地域づくりに向けた受入環境整備を推進した。

具体的には、宿泊需要喚起策として全国旅行支援を実施したほか、教育旅行の誘致強化により、県内の観光・宿泊需要の早期回復を図った。

国内外からの誘客を促進するため、デジタルマーケティングに基づく戦略的なプロモーションや、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北一体となった誘客プロモーションを展開した。

このほか、通訳ガイドをはじめとした観光人材の育成等により観光産業の体制強化を図ったほか、アウトドア需要に対応した公園施設の維持管理や観光客等が安全に利用できる登山道・遊歩道の計画的な改修を行い、受入環境整備の充実に取り組んだ。

上記の取組を含め、基本理念として掲げたウイズコロナ・ポストコロナへの対応とともに、デジタル変革を進め、地域内外から選ばれる持続可能な観光地域づくりに向けて、5つの観光戦略プロジェクトに沿った287事業を実施した。

項目	事業	事業数	事業費計
【回復戦略】	感染症により落ち込んだ観光需要の回復	65事業	87,043,285千円
【成長戦略1】	魅力あふれる観光地づくり	91事業	1,869,968千円
【成長戦略2】	観光産業の体制強化	43事業	726,336千円
【成長戦略3】	受入環境の整備促進	27事業	713,483千円
【成長戦略4】	戦略的な誘客プロモーション	61事業	5,178,962千円
合計（再掲含む）		287事業	95,532,034千円
合計（再掲除く）		120事業	89,536,879千円

本プランでは、感染症の影響による観光需要の回復フェーズを以下の4段階に整理した上で、各段階に応じた対策や季節変動に応じた切れ目のない取組を進めていきます。

なお、感染拡大の波は一定期間繰り返されることが想定されるため、感染の状況に応じ、弾力的に取り組んでいきます。

（取組のイメージ）



(1) 感染拡大防止期 …徹底した感染拡大防止対策を講じる時期(積極的助走期間)

(2) 県内回復期 …近隣日帰り旅行や県内宿泊旅行による県内流動の回復期

(3) 国内回復期 …国内の滞在型旅行による国内流動の回復期

(4) 国外からの誘客 …訪日外国人旅行者の呼び戻し・社会構造変化に向けた新たな需要へのシフト  
(ニューノーマルな観光の創出)

## 回復戦略 感染症により落ち込んだ観光需要の回復

新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ観光需要の回復と持続可能な観光地づくりに向けて、全国旅行支援をはじめとした県内の観光・宿泊需要の早期回復に向けた取組のほか、観光事業者が行う販路開拓や生産性向上等の取組を支援する等、観光業を回復軌道に乗せ、その後の成長軌道に繋げていくための取組を推進した。

### (1) 安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
外国人観光客受入環境整備促進事業	観光戦略課 (観光政策課)	8,221	外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設が行う公衆無線LAN機器設置や案内表示等の多言語化整備に対して支援を実施する。	・外国人観光客の利便性を図るため、県内の宿泊施設、観光集客施設等における公衆無線LANの整備、外国語表記の整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数10件)	
風評被害等観光客実態調査事業	観光戦略課 (観光政策課)	10,571	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	・県内主要観光地での観光客(外国人観光客含む)へのアンケート調査(県内13地点・四半期毎)及び全国の一般消費者を対象にWEBアンケート調査(6,500票)にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。	
観光再始動事業	観光戦略課 (観光政策課)	20,000	新型コロナウイルス感染症により落ち込んだ観光需要の回復に向け、インバウンド誘致を推進するため、地域食材による特別な食文化体験を中心としたコンテンツを含むツアーの造成や、その効果の検証等を行う。	・瑞巖寺における特別な食・文化体験を含むインバウンド向けのツアーを造成し、モニターツアーを3回実施した。	
小規模宿泊施設普及拡大事業	観光戦略課 (観光政策課)	12,000	外国人観光客をはじめとする多様な宿泊ニーズに対応するため、小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象にしたセミナーの開催や、小規模宿泊施設等の施設整備等に係る経費を支援する。	・県内の小規模宿泊施設の新規開業者に対し、施設整備に係る経費の一部を補助した。(交付決定件数5件) ・県内の小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象としたセミナーを2回開催した。	
みやぎ観光デジタルプロモーション事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	69,419	インバウンド回復のため、デジタルを活用し、旅行者の需要に合わせたプロモーションを実施するとともに、その結果を踏まえたインバウンド施策展開に繋げる。	・インバウンド向け観光デジタルプロモーション事業 <VISIT MIYAGI への誘客> 「VISIT MIYAGI」改修 WEB広告 約920万回表示 新規PR記事 15記事×4か国語を制作 <首都圏来訪インバウンド向け誘客> WEB広告 約240万回表示 交通広告 2箇所4週間掲載 <仙台空港国際線利用促進プロモーション> WEB広告 約240万回表示	

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
外国人観光客誘致促進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	56,206	外国人観光客の誘客回復のため、トップセールスや旅行博出展等を実施するほか、台湾、中国のサポートデスクを活用し、セールスコールや招請事業等を一体的に行う。 併せて、SNSによる情報発信を各市場に対し一元的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客誘客事業</li> </ul> 仙台市との共同で大台南国際旅行博 (R5. 11. 17～11. 20) に出展し、入場者数はコロナ前を上回り 15 万人となった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>現地誘客促進事業</li> </ul> 台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、ウィズコロナ、アフターコロナにおける速やかな誘客の回復及び更なる誘客促進を図った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>誘客促進情報発信事業</li> </ul> 本県が管理する海外向け公式 SNS を一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は 494 本。合計フォロワー数は約 29 万人となった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>台湾現地旅行会社等招請事業</li> </ul> 台湾の教育機関や旅行会社及び欧米の外国人を対象とした招請を行った。(招請者数 43 名) このうち、台湾全域の学校の教育旅行実施に強力な影響力を有する高級中等以下学校国際教育交流連盟の関係者については、同連盟 11 エリアのうち 4 エリアの処長を含む約 20 名を招請し、同連盟との間で教育旅行促進に係る覚書を締結することで合意した。	
宮城オルレ推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	73,011	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内観光向けには「宮城オルレフェア 2023 (R5. 8. 21～11. 30)」を開催し、400 人以上が参加した (平成 30 年 10 月の宮城オルレオープン以降の延べ利用者数：約 6.2 万人)。</li> <li>11 月 11 日に村田コースオープニングイベントを開催し、海外からのトレッキング関係団体及びメディア招請者を含め、約 900 人が参加した。</li> <li>九州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、パンフレット配布・物販を実施した。</li> <li>海外観光向けには、済州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、パンフレット等を配布した。</li> </ul>	
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内観光向けには、SNS の投稿キャンペーンやサービスエリアでの合同ブース出展等を行った。</li> <li>海外観光向けには、旅行会社 2 社を招請し、両県のトレッキングコース等を巡るツアーが 2 本造成された。</li> </ul>	
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	2,199	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北 3 県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイから東北への国際定期路線再開に向けたプロモーション事業</li> </ul> <タイのインフルエンサー招請事業> 媒体接触者数 約 130 万人 <タイ旅行博出展事業> ブース来場者数 18,702 人 <タイ旅行会社招請事業> 造成ツアー 17 本 造成ツアー送客数 241 人	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
外国人県民安全・安心確保事業	国際政策課	2,908	新型コロナウイルス感染症に関する情報発信機能の強化及び健康相談窓口（コールセンター）の多言語化により、外国人の不安解消を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症関連情報の多言語発信（英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、やさしい日本語）を実施</li> <li>・新型コロナウイルス感染症受診情報センター及び副反応相談センター窓口において、外部の多言語コールセンターを活用（委託）し、三者通話での多言語相談を実施（相談件数 21 件）</li> </ul>	
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,261	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。</p> <p>① 食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域をくまなく周遊するよう、参加 39 店舗を3つのエリアに分け、各エリアでおくずかけ、そば、ラーメン等指定メニュー1品を購入することで応募できる「推し麺キャンペーン」を、3 県連携広域周遊促進事業と同時期（9 月 1 日～12 月 17 日）に実施した。応募総数 185 件、総シール数 1,317 枚</li> <li>・3 県（山形、福島）連携マルシェ（11 月 3、4 日）の実施（来場者数約 9,000 人）</li> <li>・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを年 4 回開催（5、6、10、2 月）</li> <li>・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨 4 社 6 品目、推奨品目数 81 品目）とともに、リーフレットやシール、POP による販売促進を実施した。</li> <li>・スイーツマルシェ、道の駅等で「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」販売促進</li> </ul> <p>② 広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の魅力をタイムリーに発信する SNS の認知度向上のため、X（旧 Twitter）キャンペーンを 2 回、Instagram フォトキャンペーンを実施し、年度末フォロワー数が X で約 1.4 万人、Instagram で約 1,100 人に増加した。</li> <li>・「ひなの郷せんなん」として、リーフレットにより管内及び福島県のひな祭りイベントの紹介と周遊モデルコースを提案した。</li> </ul> <p>③ みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を 4 施設制作し、SNS で発信した。</li> </ul> <p>④ 「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計 3 回開催</p>	
仙南アドベンチャーツーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	930	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーツーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信を実施した。</li> <li>2 か所のキャンプ場を会場に、キャンプ初心者親子向けのモニターイベントを 3 回実施した。</li> <li>・1泊2日のキャンプ 川崎町 9 月 23 日～24 日 7 組 24 人</li> <li>・日帰りのキャンプ場遊び 川崎町 10 月 14 日 9 組 29 人</li> <li>・日帰りのキャンプイベント 丸森町 10 月 15 日 9 組 28 人</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,848	〃仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2)独自企画 秋冬周遊企画 (3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業	・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。 ①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2023」(R5.7～9月)を実施。応募総数1,039通 ②推し麺キャンペーン(再掲) ③大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業 ・みやぎ蔵王三十六景サイクルスタンプラリーへの商品提供 ・R5.12.28 村田町での初心者体験ライドにおいて、参加者への補給食等の提供や観光PRを実施(参加者27名)	
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	令和3年度に開設した公式X(旧Twitter)、令和4年度に開設した公式Instagramをはじめ、ブログやFacebook等のSNSを最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	・管内の魅力ある観光や食をタイムリーに発信するため、ウェブサイトやSNSにより情報発信を実施した。 令和5年度はX(旧Twitter)約930件、Instagramは560件、事務所ウェブサイト約50件、ブログは47件の記事を投稿した。	
3県(宮城・山形・福島)連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	近年、東北中央道の開通等により、南東北3県(宮城仙南・山形置賜・福島県北)の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力をも多くの方に知ってもらい、3県の相互交流を促進するため、各地域の特産であるフルーツや食材を使用したスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3県の計30店舗を周遊して、各地域の特産であるフルーツを使用したスイーツを4品以上購入することで応募可能となる「至福のフルーツスイーツビンゴラリー」を9月1日から12月17日まで開催した。 応募総数110件 総シール枚数1,296枚(参加者1人当たりのシール枚数11.8枚)の応募があった。	
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	996	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を超えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の連続講座を6コマ開催した。 ①②「インバウンド・観光概論」10/18開催 12人参加 ③④「観光トレンド・情報発信施策づくりワークショップ」 11/7開催 21人参加 ⑤⑥「アルベルゴ・ディフーズまちづくり交流会」 12/7開催 36人参加	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
インバウンド受入態勢強化事業	東部地方振興事務所	602	飲食店や宿泊施設等の外国人観光客とのコミュニケーション能力向上に向けた支援を行うことにより、石巻地域におけるインバウンド受入態勢を強化する。また、世界に向け石巻地域の復興状況や魅力を発信し、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンドを促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や飲食店、宿泊施設等の観光関係者を対象に、インバウンド研修を実施した。</li> <li>・研修会 1回、11人</li> <li>・地域のガイド又はガイド希望者を対象に外国人観光客案内ガイド向け研修を開催した。</li> <li>・研修会 1回、9名</li> <li>・公式 Facebook（英語・中国語版）による情報発信を実施した。</li> <li>・英語版 49回、中国語版 51回</li> </ul>	
気仙沼地方振興事務所公式 Instagram による情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	32	公式 Instagram を開設し、圏域の観光資源の魅力を効果的に情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内観光資源の効果的な情報発信のため、公式 Instagram を運営した。</li> <li>・投稿数 166件（総数 625）</li> <li>・フォロワー増加数 422（総数 2,256）</li> </ul>	
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「宮城オルレフェア 2023」のコースイベント（10/9）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともに、イベント運営業務に従事した。</li> </ul>	
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	2,000	アウトドアコンテンツに取り組む圏域の観光プレイヤーとの連携のもと、当該コンテンツへの誘客と、その魅力発信のため、地元 YouTuber による情報発信を行うとともに、アウトドアアクティビティを体験するイベントを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管内の観光資源の魅力を発信するため、代表的なアクティビティであるトレッキングイベントに地元人気 YouTuber を招聘し、その体験動画を当該 YouTuber のチャンネルで配信した。</li> <li>・フォロワー：140万人</li> <li>・配信回数：1回（視聴数：3万回）</li> <li>・釣りやマリンスポーツなど海を中心としたアウトドアアクティビティのほか、多様な体験コンテンツに関する動画を地元人気 YouTuber のチャンネルで配信した。</li> <li>・フォロワー：10万人</li> <li>・配信回数：4回（視聴数：気仙沼夏編 2.2万回、気仙沼冬編 2.6万回、南三陸夏編 1.6万回、南三陸冬編 1.9万回）</li> </ul>	
スタッフブログ「南三陸&気仙沼を体感！」来て見て浜ライン”」	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・本吉地域の復旧・復興情報や見所、イベント情報などについて、取材を通じて情報収集し、ブログにより情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気仙沼・本吉地域で活躍する人材にスポットを当てて取材し、情報発信を行った。</li> <li>・投稿数：1件</li> </ul>	
感染症発生対策事業	疾病・感染症対策課	3,234,884	旅行者を含めた一般の方から新型コロナウイルス感染症に関する健康相談を受け付けるための電話相談窓口（受診・相談センター）の運営を行うとともに、感染者発生時は積極的疫学調査や入院措置等により感染拡大防止を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診・相談センターの運営を行ったほか、感染症患者の検査及びまん延防止のための積極的疫学調査等を実施した（検査及び積極的疫学調査は5月8日の5類移行により終了）。</li> <li>・相談対応等件数 46,788件</li> <li>・PCR検査件数 218件</li> </ul>	
クルーズ船受入促進事業	港湾課	96	国内外からの誘客を図るため、仙台塩釜港へのクルーズ船の誘致活動を行うとともに、寄港時の受入対応（おもてなし）を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国クルーズ船の受入が再開したこともあり、過去2番目となる延べ12隻（仙台港区7隻/石巻港区5隻）のクルーズ船が寄港し、受入対応を行った。</li> <li>・また、石巻港大型客船誘致協議会と連携し、クルーズ船社やオプションルツアーを造成する旅行会社など5社に対し、共同ポートセールスを実施し、クルーズ船の県内寄港に向けた取り組みを推進した。</li> </ul>	

## (2) 回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
観光地域づくり チャレンジ事業	観光戦略課 (観光政策課)	8,149	みやぎ観光戦略プランに基づき、地方振興事務所と地域の事業者が一体となって、交流人口や関係人口の創出・拡大に向けた観光地域づくりを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の日帰り温泉と道の駅等において、周遊企画としてスタンプラリーを実施</li> <li>周遊スポット計 17 施設</li> <li>・仙台・松島地域における体験型コンテンツについて、SNS を活用した情報発信を実施</li> <li>紹介スポット 12 箇所</li> <li>・栗原地域の地域資源を活用した観光コンテンツの造成・旅行商品の販売</li> <li>観光コンテンツ造成・商品化 5 種類</li> <li>・登米地域における観光やグルメスポットについて、情報誌を活用した情報発信を実施</li> <li>「せんだいタウン情報 S-style」への掲載</li> </ul>	
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課 (観光政策課)	66,438	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(113 件、延べ 4,950 名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、269 件、31,140,000 円を交付した。</li> </ul>	
風評被害等観光客実態調査事業	観光戦略課 (観光政策課)	10,571	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内主要観光地での観光客（外国人観光客含む）へのアンケート調査（県内 13 地点・四半期毎）及び全国の一般消費者を対象に WEB アンケート調査（6,500 票）にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。</li> </ul>	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光戦略課 (観光政策課)	221,843	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備（蔵王、気仙沼大島等）などを行ったほか、広域観光案内板の盤面更新（仙台駅西口等）を行った。</li> </ul>	
宮城ワーケーション情報環境整備推進事業	観光戦略課 (観光政策課)	1,455	宮城におけるワーケーションの一層の普及促進を図るため、県内のワーケーション施設等の情報を一元化したポータルサイトを構築し、効果的な情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年度に開設した WEB サイト「Miwork 宮城」において、ワークスペース、宿泊施設及び観光施設等のワーケーション情報を一元化して発信することで、宮城のワーケーションの普及促進及び利用者の利便性向上に努めた。</li> <li>掲載施設数：128 件</li> <li>総ページビュー数：49,345 ビュー</li> </ul>	
観光事業者原油高騰緊急支援事業	観光戦略課 (観光政策課)	20,150	コロナ禍の影響や原油等価格高騰の影響を受けている県内の遊覧船運営事業者及びスキー場運営事業者に対し、事業継続を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の遊覧船運営事業者やスキー場運営事業者に対して、保有台数等に応じた支援金を交付した。(交付決定件数 17 件)</li> </ul>	
小規模宿泊施設普及拡大事業	観光戦略課 (観光政策課)	12,000	外国人観光客をはじめとする多様な宿泊ニーズに対応するため、小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象にしたセミナーの開催や、小規模宿泊施設等の施設整備に係る経費を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の小規模宿泊施設の新規開業者に対し、施設整備に係る経費の一部を補助した。(交付決定件数 5 件)</li> <li>・県内の小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象としたセミナーを 2 回開催した。</li> </ul>	○

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
観光誘客推進事業	観光戦略課 (観光政策課)	72,028	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みやぎ応援ポケモン」ラブラスを活用した事業のほか、コンテンツツウリズム促進のためのマップ作製、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。</li> <li>「ラブラス+海巡り」 エントリユーザー数 1,308 人</li> <li>「阿武急 ラブラス&amp;ラッキートレインでGO! アブQからの挑戦状」 参加者数 892 人</li> <li>「仙台・宮城アニメ・漫画ゆかりの地探訪 MAP」(せんだい・宮城フィルムコミッションと共同製作) 発行部数 30,000 部</li> <li>宮城県公式 SNS 運営 Instagram 投稿数 233 (フォロワー数約 7400 人増)</li> </ul>	
宿泊・観光需要創出事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	3,271,913	新型コロナウイルス感染症の影響により打撃を受けた、宿泊・観光事業者への経営支援につなげるほか、落ち込んだ観光・宿泊需要の早期回復を図るため、宿泊割引等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国旅行支援</li> <li>&lt;実施期間&gt; R5. 1. 10~R5. 7. 21 R5. 8. 28~R5. 9. 29</li> <li>&lt;実施内容&gt; 割引率：20%、割引上限額：交通付商品 5,000 円/交通付商品以外 3,000 円 クーポン上限額：平日 2,000 円/休日 1,000 円※電子クーポン</li> <li>&lt;実績 (R5 年度実施分のみ) &gt; 37 万人泊</li> </ul>	
誘客・周遊促進による交通事業者支援事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	1,160	バス・レンタカー・タクシー・旅客船を活用した旅行商品の造成・運行に係る経費の助成や仙台国際空港(株)に就航している航空事業者への委託による誘客促進キャンペーンを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス、レンタカー、タクシー、旅客船を活用した旅行商品の造成・運行経費助成</li> <li>参加旅行会社 8 者</li> </ul>	
燃油高騰に伴う観光・交通等支援事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	123,840	旅行事業者を活用した地域観光業等支援として、宿泊事業者や交通事業者を活用した旅行商品に係る経費及び事業実施に要する諸経費等の補助を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃油高騰の影響を受ける貸切バスや遊覧船などを利用した旅行商品について、諸経費への補助を行った。</li> <li>&lt;実績&gt;42 件</li> <li>・OTA において宮城県への宿泊に使える割引クーポンを配布</li> <li>&lt;実施期間&gt;R5. 10. 30~R6. 1. 31</li> <li>&lt;実施内容&gt; クーポン上限額：宿泊プラン 1 千円/交通費宿泊プラン 2 千円</li> <li>&lt;実績&gt;約 13 万人泊</li> </ul>	
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課 (観光政策課)	3,838	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵王町遠刈田地区等の 3 地区をモデル地域とし、意見交換会 (2 回) を開催したほか、遠刈田地区と鳴子温泉において、地域の担い手と連携しながら新たな賑わい創出に向けたイベントを開催した。</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
中小企業経営安定資金等貸付金 (コロナ対応分)	商工金融課	75,824,000	新型コロナウイルス感染症により売上高が減少した中小企業者に対して、民間金融機関を活用した資金繰り支援を実施するため、取扱金融機関に対し預託原資の貸し付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症により売上高が減少した中小企業者に対して、民間金融機関を活用した資金繰り支援を実施した。</li> <li>融資件数 2,125 件</li> <li>融資金額 56,947,992 千円</li> </ul>	
被災中小企業者対策資金利子補給事業補助	商工金融課	2,592,833	県制度融資「新型コロナウイルス感染症対応資金」の金利負担を軽減するため、利子補給を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>県制度融資「新型コロナウイルス感染症対応資金」の金利負担を軽減するため、利子補給を行った。</li> <li>利子補給対象融資件数 30,883 件</li> <li>利子補給対象融資金額 291,364,424 千円</li> <li>利子補給金額 2,554,082 千円</li> </ul>	
中小企業等再起支援事業	中小企業支援室	833,380	新型コロナウイルス感染症の感染拡大や、原油価格・物価高騰の影響によって業績が悪化し、経営の維持向上に支障をきたしている中小企業・小規模事業者が、早期の再起を図るために行う、販路開拓や生産性向上等の取組を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>販路開拓、生産性向上等に取り組む中小企業・小規模事業者に対し、中小企業等再起支援事業補助金を交付し、事業者負担の軽減に関する支援を行った。</li> <li>&lt;一次募集&gt;</li> <li>申請受付期間：4月3日～5月31日</li> <li>&lt;二次募集&gt;</li> <li>申請受付期間：7月10日～8月10日</li> <li>&lt;三次募集&gt;</li> <li>申請受付期間：9月13日～10月13日</li> <li>&lt;四次募集&gt;</li> <li>申請受付期間：12月27日～1月31日</li> <li>&lt;合計&gt;</li> <li>支援件数：1,006 件</li> <li>支援額：838,594 千円</li> </ul>	
中小企業等事業再構築支援事業	中小企業支援室	278,974	新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって業績が悪化し、経営の維持向上に支障をきたしている県内の中小企業等が、ポストコロナ・ウィズコロナ時代の経済社会の変化に対応するため、持続可能な経営形態への転換など事業の再構築を図る取組を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国が実施する「中小企業等事業再構築支援促進補助金」の採択事業者に対し、中小企業等事業再構築支援補助金（上乗せ補助）を交付し、事業者負担の軽減に関する支援を行った。</li> <li>申請期間：6月30日～11月30日</li> <li>支援件数：74 件</li> <li>支援額：262,533 千円</li> </ul>	
みやぎ人財活躍推進プロジェクト事業	雇用対策課	143,024	女性や高齢者等の潜在的労働力の掘り起こしから就職までをトータルかつきめ細かにサポートする雇用支援拠点の設置と県内企業の受入環境の整備支援を実施し、求人・求職側の双方から多様な人材の活躍を推進することで、企業の競争力の源泉である「人財」の確保を進め、富県宮城の実現を雇用政策面から支える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な人材の活躍を推進するため、就職支援拠点を設置し、各種支援を実施した結果3,792人の就職に繋がったほか、地域企業を牽引するフラグシップ企業の育成に向けた12社の伴走支援により職場環境の改善に繋がった。</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,261	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>・仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。</p> <p>①食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域をくまなく周遊するよう、参加39店舗を3つのエリアに分け、各エリアでおくずかけ、そば、ラーメン等指定メニュー1品を購入することで応募できる「推し麺キャンペーン」を、3県連携広域周遊促進事業と同時期（9月1日～12月17日）に実施した。応募総数185件、総シール数1,317枚</li> <li>・3県（山形、福島）連携マルシェ（11月3、4日）の実施（来場者数約9,000人）</li> <li>・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを年4回開催（5、6、10、2月）</li> <li>・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨4社6品目、推奨品目数81品目）とともに、リーフレットやシール、POPによる販売促進を実施した。</li> <li>・スイーツマルシェ、道の駅等で「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」販売促進</li> </ul> <p>②広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、Instagramフォトキャンペーンを実施し、年度末フォロワー数がXで約1.4万人、Instagramで約1,100人に増加した。</li> <li>・「ひなの郷せんなん」として、リーフレットにより管内及び福島県のひな祭りイベントの紹介と周遊モデルコースを提案した。</li> </ul> <p>③みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を4施設制作し、SNSで発信した。</li> </ul> <p>④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○
仙南アドベンチャーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	930	<p>子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。</p>	<p>・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信を実施した。</p> <p>2か所のキャンプ場を会場に、キャンプ初心者親子向けのモニターイベントを3回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1泊2日のキャンプ 川崎町 9月23日～24日 7組24人</li> <li>・日帰りのキャンプ場遊び 川崎町 10月14日 9組29人</li> <li>・日帰りのキャンプイベント 丸森町 10月15日 9組28人</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,848	<p>仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。</p> <p>(1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏)</p> <p>(2)独自企画 秋冬周遊企画</p> <p>(3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業</p>	<p>仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。</p> <p>①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2023」(R5.7～9月)を実施。応募総数1,039通</p> <p>②押し麺キャンペーン(再掲)</p> <p>③大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎ蔵王三十六景サイクルスタンプラリーへの商品提供</li> <li>・R5.12.28 村田町での初心者体験ライドにおいて、参加者への補給食等の提供や観光PRを実施(参加者27名)</li> </ul>	○
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	<p>令和3年度に開設した公式X(旧Twitter)、令和4年度に開設した公式Instagramをはじめ、ブログやFacebook等のSNSを最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管内の魅力ある観光や食をタイムリーに発信するため、ウェブサイトやSNSにより情報発信を実施した。</li> </ul> <p>令和5年度はX(旧Twitter)約930件、Instagramは560件、事務所ウェブサイト約50件、ブログは47件の記事を投稿した。</p>	○
3県(宮城・山形・福島)連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	<p>近年、東北中央道の開通等により、南東北3県(宮城仙南・山形置賜・福島県北)の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力を多くの方に知ってもらい、3県の相互交流を促進するため、各地域の特産であるフルーツや食材を使用したスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3県の計30店舗を周遊して、各地域の特産であるフルーツを使用したスイーツを4品以上購入することで応募可能となる「至福のフルーツスイーツビンゴラリー」を9月1日から12月17日まで開催した。</li> </ul> <p>応募総数110件 総シール枚数1,296枚(参加者1人当たりのシール枚数11.8枚)の応募があった。</p>	○
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	996	<p>仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を超えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の連続講座を6コマ開催した。</li> </ul> <p>①②「インバウンド・観光概論」10/18開催 12人参加</p> <p>③④「観光トレンド・情報発信施策づくりワークショップ」11/7開催 21人参加</p> <p>⑤⑥「アルベルゴ・ディフーズまちづくり交流会」12/7開催 36人参加</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙山交流連携促進事業	仙台地方振興事務所	560	文化面・交通面での結びつきが強い宮城県仙台地域及び山形県村山地域合同の特産品販売会等を支援するとともに、両地域の魅力を発信することで、両地域の相互交流をさらに深める。	<p>①両地域間の周遊促進を目的とし、仙台・県南浜街道地域、山形・西村山地域の計11市町を対象とした「仙山交流スイーツスタンプラリー」を7月15日から3ヶ月間開催した。  ドライブスタンプラリー参加者数：889名  家たびスタンプラリー参加者数：602名</p> <p>②仙山交流連携の促進に向け、歴史・文化をテーマにした内容で関係者による事例発表を行う、仙山交流連携促進会議を東北歴史博物館で行った。  会議参加者 仙台・村山管内市町村職員等38名</p> <p>③10月11日、12日に勾当台公園市民広場で、両地域の産物を一堂に集め、生産者自ら直接販売を行う、「仙山交流味祭 in せんだい」を開催した。（主催は民間団体。当所は広報等の側面的支援を実施。）  出店者数：21店舗  延べ来場者数：4,500名</p>	
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	1,997	仙台圏域が一体となった観光周遊戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	<p>①管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット（40店舗）を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域うまいっちゃ！スタンプラリー」を実施した。合わせてお勧め観光スポット（20か所）をデジタルマップ上に掲載し、周遊促進を図った。  参加者：2,682人</p> <p>②食と観光を連携させた取組として、上記スタンプスポット先の飲食店や周辺観光スポット等を情報雑誌「りらく」11月号へ掲載し、食と観光をテーマに地域の魅力発信・周遊促進を図った。  発行部数：5万部</p> <p>③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）、仙台国際空港株式会社、JRより講師を招き、令和6年2月14日に研修会を開催した。  参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等52名</p>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台地域体験型コンテンツ魅力発信事業	仙台地方振興事務所	648	管内の地域資源を活かした魅力的な体験型コンテンツを SNS を通じて県内外に広く発信するもの。	<p>仙台・松島地域の特徴的な地域資源を生かした体験とその周辺のおすすめ観光スポットや飲食店等を、知名度が高いキャラクターを起用し、インスタグラムの共同投稿により情報発信を行った。</p> <p>また、インスタグラムの広告を活用し効果的に広報を行った。</p> <p>&lt;紹介スポット&gt;</p> <p>松島エリア：4箇所、仙台・名取エリア：4箇所、亶理・山元エリア：4箇所</p> <p>&lt;インスタグラム投稿内容&gt;</p> <p>リール投稿：13本、フィード投稿：3本</p> <p>&lt;インスタグラム広告&gt;</p> <p>2月29日～3月8日の期間でインスタグラムの広告を使い、当事業で作成した各スポットを紹介する県のCMSのページに誘導する仕掛けを行った。</p>	
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会事業	仙台地方振興事務所	1,166	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会の事務局として、関係市町村等と連携・協働しながら、圏域観光の推進を図る。	<p>①管内市町村の特色PR事業として、10月7日、8日に仙台湾の杜水族館において、観光誘客キャラバン及び管内事業者等による特産品販売会を実施した。</p> <p>参加市町村数 13市町村 特産品販売会出店者数 11市町から14店舗</p> <p>②みやぎせんたい・松島エリア観光ガイドブックの時点修正及び増刷を行った。</p> <p>作成部数：25,000部 配布箇所数：管内市町村、観光施設等約100か所</p> <p>③地場産業振興協議会事業との連携</p> <p>宮城黒川地域地場産業振興協議会が開催した物産展に観光PRブースを設置しパンフレットの配布等を行った。</p> <p>名亶地場産業振興協議会が開催したJAFドライブスタンプラリー事業のPRと併せて仙台地方振興事務所のSNSアカウントフォローキャンペーンを実施した。</p>	
関係人口拡大プロモーション事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	1,471	若年層（大学生・専門学校生等）を対象として、地域の企業や団体と連携した「課題解決型合宿」やお手伝い型の体験イベントを実施する。	<p>・若年層（～30代）を対象とした関係人口拡大に向けた取組を実施した。</p> <p>取組数3件、参加者計41名</p>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
観光地域づくり チャレンジ事業 『栗駒山麓「旅 の秋冬コレクシ ョン」台湾 FIT 誘客促進事業』	北部地方振興 事務所栗原地 域事務所	6,229	取組① 「看板商品」のインバウンド向け磨 き上げ及び商品化とFAMツアー等による検証 取組② 恒常的な海外市場への販路形成、販 売チャンネル拡大、商品プロモーション促進 を目的とした、ランドオペレーターや海外エ ージェント等との販路基盤構築(OTA3社、海外 旅行会社2社) 取組③ 上記①及び②の取組を経て、絞り込 んだターゲット及び市場に対して実際に販売 (OTA3社による販売)するとともに、継続的な 販売に向けて検証・フィードバックを実施。	・観光コンテンツ造成・商品化 秋冬コ ンテンツ 5種類 ・FAMツアー 2回実施、延べ8人参加 東北地域のインバウンド情勢に精通 している専門家4名によるFAMツアーを 実施。アドバイス等を商品に反映させ た。 ・旅行商品の販売 OTAを中心に10商品を販売。2商品に 各4名の申し込みを受け、催行した。	
観光と食の魅力 発信支援事業	東部地方振興 事務所	475	観光関係団体や商工団体、事業者等と連携し、 地域の観光や食の魅力を隣接県の道の駅等に おいて情報発信することにより、地域食材等 の知名度向上や売上の増加、交流人口の拡大 による観光消費額の増加を図る。	・地域の観光と食のPRを目的として、 福島県国見町において、「石巻地域の物 産と観光展 in あつかしの郷」を開催し た。 日数 10日間、出店数 延べ6店舗 ・地域の観光と食のPRを目的として、 山形県米沢市において、「石巻地域の物 産と観光展 in 上杉城史苑」を開催した。 日数 2日間、出店数 延べ3店舗 ・石巻復興フード見本市や大型客船入港 等のイベントと連携した観光PR、ホーム ページやSNS、ロビーショーケースにお けるイベントや特産品の情報を発信し た。 SNS(3媒体)投稿数 501件 ・「いいねっいのまきフォトキャンペ ーン」を開催し、応募873件、フォロー ー1,758人→1,930人(172人増)	
仙台・宮城観光 キャンペーン推 進協議会三陸地 域部会による情 報発信事業	東部地方振興 事務所・気仙 沼地方振興事 務所	1,254	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸 地域部会の事務局として、関係市町や観光関 係団体等と連携しながら観光資源の広報宣伝 等を実施し、石巻・気仙沼地域への交流人口 の拡大を図るとともに、観光を活かした地域 振興を推進する。	・S-style(観光雑誌12月号及びWEBペ ージ)に、三陸エリア情報を掲載し、PR した。 発行部数 5万部 ・三陸地域の周遊促進を目的として「み やぎ三陸エリアドライブマップ」を作 成・配布した。 発行部数 3万部 ・地域の観光資源を県内旅行事業者に直 接訴求し、魅力的な旅行商品の造成に繋 げるための商談会に参加し、三陸地域の 観光PRを実施した。	
地域支援事業 (地域振興型)	東部地方振興 事務所	1,830	震災からの復興が進んだ石巻圏域の新たな観 光資源をあなご、ほや雑煮、石巻せり鍋等の 「食」やみちのく GOLD 浪漫に認定された金華 山、世界の持続可能な観光地 Top 100に認定 された東松島市等の視点から再発見し、更な る関係人口・交流人口の拡大を目指す。	・石巻圏域における「みちのく潮風トレ イル」と「寿司・海鮮」の認知度向上の ため、体験モニターツアー(みちのく潮 風トレイルツアー、寿司・海鮮体験ツ アーを実施したもの。 みちのく潮風トレイルツアー:13名参 加(北海道、青森、岩手、埼玉、栃木、 千葉、東京他) 寿司・海鮮体験ツアー:20名参加(岩 手、福島、静岡他)	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
誘客促進事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	746	公式 SNS「ほっとめーしょん」の Instagram アカウントにおいて、登米市の魅力あるコンテンツを紹介してもらうフォトコンテストを実施するとともに、フォトコンテストの投稿写真を活用した、仙台駅構内のデジタルサイネージでの広告掲載、登米地域内の観光スポット及び飲食店等の情報を集約したデジタルマップの作成を行い、情報発信の強化を図る。	<p>①SNS を活用したフォトコンテストの実施 当所の公式 SNS「ほっとめーしょん」の Instagram アカウントにおいて、登米市の魅力あるコンテンツを紹介してもらうフォトコンテスト（投稿数 726 件）を開催した。 （開催期間：R5. 4. 10～R6. 1. 10） 上記期間中に、WEB 広告を掲載（掲載期間：R5. 8. 10～9. 30）することでフォトコンテストへの参加を促した。</p> <p>②SNS、デジタルマップ等を活用した登米圏域の PR 当所の公式 SNS「ほっとめーしょん」を活用し、登米圏域の PR を実施するとともに、事務所及び登米市で実施するイベントの周知を行う等、情報発信を行った。（投稿件数：92 件） Google マイマップ機能に関する情報収集やスタートアップまでの手順の整理を行い、デジタル版「登米エリアドライブマップ」の作成準備試行版を作成した。</p> <p>③仙台・宮城観光キャンペーン及び岩手・宮城県際地域との連携による誘客促進 担当者会議にて今年度の打合せを実施した。併せて、県北地域部会の公式 Instagram「よしきたみやぎ」において、県北地域の魅力発信を行った。 「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」に参画し、今年度の研究会事業である県際マルシェを開催、地場製品の展示・販売補助及び観光 PR 等を行った。</p>	
気仙沼地方振興事務所公式 Instagram による情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	32	公式 Instagram を開設し、圏域の観光資源の魅力効果を効果的に情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域内観光資源の効果的な情報発信のため、公式 Instagram を運営した。 投稿数 166 件（総数 625） フォロワー増加数 422（総数 2,256）</li> </ul>	○
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「宮城オルレフェア 2023」のコースイベント（10/9）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともに、イベント運営業務に従事した。</li> </ul>	○
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	2,000	アウトドアコンテンツに取り組む当圏域の観光プレイヤーとの連携のもと、当該コンテンツへの誘客と、その魅力発信のため、地元 YouTuber による情報発信を行うとともに、アウトドアアクティビティを体験するイベントを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>管内の観光資源の魅力発信するため、代表的なアクティビティであるトレッキングイベントに地元人気 YouTuber を招聘し、その体験動画を当該 YouTuber のチャンネルで配信した。 フォロワー：140 万人 配信回数：1 回（視聴数：3 万回）</li> <li>釣りやマリンスポーツなど海を中心としたアウトドアアクティビティのほか、多様な体験コンテンツに関する動画を地元人気 YouTuber のチャンネルで配信した。 フォロワー：10 万人 配信回数：4 回（視聴数：気仙沼夏編 2.2 万回、気仙沼冬編 2.6 万回、南三陸夏編 1.6 万回、南三陸冬編 1.9 万回）</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
スタッフブログ 「南三陸&気仙沼を体感!”来て見て浜ライン”」	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・本吉地域の復旧・復興情報や見所、イベント情報などについて、取材を通じて情報収集し、ブログにより情報発信を行う。	・気仙沼・本吉地域で活躍する人材にスポットを当てて取材し、情報発信を行った。 投稿数：1件	○
アウトドアコンテンツ等の外国語翻訳による情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・南三陸地域観光情報発信事業において作成したコンテンツを複数の言語に翻訳し、SNSやWebサイトで発信する。	・3月11日の「みやぎ鎮魂の日」に合わせて、気仙沼・南三陸の震災伝承施設の記事を英訳し、Visit Miyagi において情報発信を行った。	
インターネット広報事業	広報課	4,734	ウェブサイト、Facebook、メールマガジン等の特性を活かし、県政ニュースや各種イベント、宮城の魅力、観光情報等を発信する。	・ウェブサイトは、県政ニュース等を掲載するニュースクリップを年間72件掲載した。また、トップページ上段の大バナー及びページ中段の事業PRバナーにおいて年間21件の県政情報を掲載した。 ・Facebookは、年間470件投稿し、フォロワー数は165人増の13,793人となった。 ・メルマガ・みやぎは、年間48回配信し、年度末の登録者数は6,076人となった。	
宮城県戦略的魅力発信事業	広報課	21,265	県内外に向け、宮城の様々な魅力を総合・横断的に広報する。	・全国放送網のテレビを活用したパブリシティにより、宮城の様々な魅力を発信し、4企画の露出を獲得した。また、宮城の魅力を紹介するショート動画38本をSNSで公開し、若年層を中心に幅広い世代に訴求を図った。	
サテライトオフィス設置推進事業	地域振興課	6,363	宮城県内にサテライトオフィスを設置した宮城県外に所在する企業・大学に対し、オフィスの賃料や家賃補助を行う。	・テレワークの実施場所を新たに宮城県内に設ける企業等に対して、補助金を交付した。 設置推進補助（民間事業者向け賃料補助） 12社 6,362,300円	
首都圏向け情報発信事業	東京事務所	— (非予算)	主に首都圏をターゲットに観光地などに関する情報を発信するとともに、首都圏開催の本県関連イベント等の情報を適宜発信する。	・首都圏開催の各種イベントやメディア向け記者会見、企業訪問等の場で、積極的に観光情報の発信を行った。また、東京事務所ホームページと各SNSを活用し、宮城県内及び首都圏で開催される本県関連イベント等についてタイムリーに情報発信を行った。 Facebook及びInstagramでの情報発信126件	

回復戦略 合計 65事業 87,043,285千円

成長戦略1 魅力あふれる観光地づくり

宮城県が誇る食・自然・歴史・文化等の観光資源の発掘・磨き上げを行ったほか、デジタル技術を活用した観光コンテンツの造成により、来訪意欲の増進に取り組んだ。

また、地域住民の郷土への誇りや愛着の意識向上に向け、教育分野と連携し、未来を担う子どもたちにふるさとに関する教育等の推進を図ったほか、東日本大震災の風化防止と震災の教訓を次世代へ伝承するため、積極的な情報発信を行った。

(1) 特色ある地域資源の発掘・磨き上げと観光コンテンツの充実

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
宮城県グリーン製品を活用した公園施設整備事業	観光戦略課 (観光政策課)	12,812	東北自然歩道「新・奥の細道」の案内看板等が老朽化したため、撤去を行うとともに引き続き必要な個所には新しい案内看板を設置する。	・栗原市などの東北自然歩道における指導標識等の整備を行った。	
外国人観光客受入環境整備促進事業	観光戦略課 (観光政策課)	8,221	外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設が行う公衆無線LAN機器設置や案内表示等の多言語化整備に対して支援を実施する。	・外国人観光客の利便性を図るため、県内の宿泊施設、観光集客施設等における公衆無線LANの整備、外国語表記の整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数10件)	○
観光地域づくりチャレンジ事業	観光戦略課 (観光政策課)	8,149	みやぎ観光戦略プランに基づき、地方振興事務所と地域の事業者が一体となって、交流人口や関係人口の創出・拡大に向けた観光地域づくりを実施する。	・仙南地域の日帰り温泉と道の駅等において、周遊企画としてスタンプラリーを実施 周遊スポット計17施設 ・仙台・松島地域における体験型コンテンツについて、SNSを活用した情報発信を実施 紹介スポット12箇所 ・栗原地域の地域資源を活用した観光コンテンツの造成・旅行商品の販売 観光コンテンツ造成・商品化5種類 ・登米地域における観光やグルメスポットについて、情報誌を活用した情報発信を実施 「せんだいタウン情報S-style」への掲載	○
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課 (観光政策課)	66,438	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(113件、延べ4,950名) ・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。 ・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。 ・教育旅行バス助成事業として、269件、31,140,000円を交付した。	○
フィルムコミッション推進事業	観光戦略課 (観光政策課)	2,044	映画、テレビを通じて当県の魅力を内外に広く発信し、当県の知名度向上と観光集客力の強化を推進するため、「せんだい宮城フィルムコミッション」に参画して、映画、テレビ等の撮影のロケーションの誘致、支援等を行う。	・「せんだい・宮城フィルムコミッション」の所属団体として、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組に対して支援した。 「せんだい・宮城フィルムコミッション」における支援件数190件、撮影実績35件	

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
風評被害等観光客実態調査事業	観光戦略課 (観光政策課)	10,571	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	・県内主要観光地での観光客（外国人観光客含む）へのアンケート調査（県内13地点・四半期毎）及び全国の一般消費者を対象にWEBアンケート調査（6,500票）にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光戦略課 (観光政策課)	221,843	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	・荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備（蔵王、気仙沼大島等）などを行ったほか、広域観光案内板の盤面更新（仙台駅西口等）を行った。	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課 (観光政策課)	658	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計11回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。	
観光再始動事業	観光戦略課 (観光政策課)	20,000	新型コロナウイルス感染症により落ち込んだ観光需要の回復に向け、インバウンド誘致を推進するため、地域食材による特別な食文化体験を中心としたコンテンツを含むツアーの造成や、その効果の検証等を行う。	・瑞巖寺における特別な食・文化体験を含むインバウンド向けのツアーを造成し、モニターツアーを3回実施した。	○
観光誘客推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	72,028	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	・「みやぎ応援ポケモン」ラブラスを活用した事業のほか、コンテンツツーリズム促進のためのマップ作製、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。 「ラブラス+海巡り」 エントリーユーザー数 1,308人 「阿武急 ラブラス&ラッキートレインでGO! アブQからの挑戦状」 参加者数 892人 「仙台・宮城アニメ・漫画ゆかりの地探訪MAP」(せんだい・宮城フィルムコミッションと共同製作) 発行部数 30,000部 宮城県公式 SNS 運営 Instagram 投稿数 233 (フォロワー数約 7400人増)	○
みやぎ観光デジタルプロモーション事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	69,419	インバウンド回復のため、デジタルを活用し、旅行者の需要に合わせたプロモーションを実施するとともに、その結果を踏まえたインバウンド施策展開に繋げる。	・インバウンド向け観光デジタルプロモーション事業 <VISIT MIYAGI への誘客> 「VISIT MIYAGI」改修 WEB 広告 約 920 万回表示 新規 PR 記事 15 記事×4 か国語を制作 <首都圏来訪インバウンド向け誘客> WEB 広告 約 240 万回表示 交通広告 2 箇所 4 週間掲載 <仙台空港国際線利用促進プロモーション> WEB 広告 約 240 万回表示	○

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
外国人観光客誘致促進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	56,206	外国人観光客の誘客回復のため、トップセールスや旅行博出展等を実施するほか、台湾、中国のサポートデスクを活用し、セールスコールや招請事業等を一体的に行う。 併せて、SNSによる情報発信を各市場に対し一元的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客誘客事業 仙台市との共同で大台南国際旅行博(R5.11.17~11.20)に出展し、入場者数はコロナ前を上回り15万人となった。</li> <li>現地誘客促進事業 台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、ウィズコロナ、アフターコロナにおける速やかな誘客の回復及び更なる誘客促進を図った。</li> <li>誘客促進情報発信事業 本県が管理する海外向け公式SNSを一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は494本。合計フォロワー数は約29万人となった。</li> <li>台湾現地旅行会社等招請事業 台湾の教育機関や旅行会社及び欧米の外国人を対象とした招請を行った。(招請者数43名) このうち、台湾全域の学校の教育旅行実施に強力な影響力を有する高級中等以下学校国際教育交流連盟の関係者については、同連盟11エリアのうち4エリアの処長を含む約20名を招請し、同連盟との間で教育旅行促進に係る覚書を締結することで合意した。</li> </ul>	○
宮城オルレ推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	73,011	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内観光向けには「宮城オルレフェア2023(R5.8.21~11.30)」を開催し、400人以上が参加した(平成30年10月の宮城オルレオープン以降の延べ利用者数:約6.2万人)。</li> <li>11月11日に村田コースオープニングイベントを開催し、海外からのトレッキング関係団体及びメディア招請者を含め、約900人が参加した。</li> <li>九州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、パンフレット配布・物販を実施した。</li> <li>海外観光向けには、済州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、パンフレット等を配布した。</li> </ul>	○
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内観光向けには、SNSの投稿キャンペーンやサービスエリアでの合同ブース出展等を行った。</li> <li>海外観光向けには、旅行会社2社を招請し、両県のトレッキングコース等を巡るツアーが2本造成された。</li> </ul>	

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
国際観光モデル 地区観光施設整備 事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	2,199	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北3県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	・タイから東北への国際定期路線再開に向けたプロモーション事業 ＜タイのインフルエンサー招請事業＞ 媒体接触者数 約130万人 ＜タイ旅行博出展事業＞ ブース来場者数 18,702人 ＜タイ旅行会社招請事業＞ 造成ツアー17本 造成ツアー送客数241人	
東北観光推進機構等と連携した 広域観光の取組強化	観光戦略課 (観光政策課・観光プロモーション推進室)	18,500	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北が一体となった観光プロモーションの展開などの取組を行う。	・東北観光推進機構において、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ東北・新潟域内の観光需要の早期回復を目的に、関係団体と連携したプロモーション等を実施した。 東北の新しい旅行スタイル創出プロジェクト「Base!TOHOKU」の実施 台湾で東北PRイベント「日本東北遊楽日」を実施	
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課 (観光政策課)	3,838	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	・蔵王町遠刈田地区等の3地区をモデル地域とし、意見交換会(2回)を開催したほか、遠刈田地区と鳴子温泉において、地域の担い手と連携しながら新たな賑わい創出に向けたイベントを開催した。	○
宮城マスター検定事業	富県宮城推進室	872	ご当地検定の形式を用いて、宮城の特産品、観光地、イベント等産業関係の情報を中心に広く県内外にPRすることにより、宮城県の地域資源、産業全般に関する認知度を高めるとともに、地域産業の活性化を図る。	・本県の魅力を県内外に発信するため、宮城マスター検定1級試験を実施し、235人が受験したほか、出前講座を4回開催し、229人が参加した。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,261	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1)食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2)広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3)みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4)みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>・仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。</p> <p>①食のブランド化事業</p> <p>・圏域をくまなく周遊するよう、参加39店舗を3つのエリアに分け、各エリアでおくずかけ、そば、ラーメン等指定メニュー1品を購入することで応募できる「押し麺キャンペーン」を、3県連携広域周遊促進事業と同時期（9月1日～12月17日）に実施した。応募総数185件、総シール数1,317枚</p> <p>・3県（山形、福島）連携マルシェ（11月3、4日）の実施（来場者数約9,000人）</p> <p>・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを年4回開催（5、6、10、2月）</p> <p>・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨4社6品目、推奨品目数81品目）とともに、リーフレットやシール、POPによる販売促進を実施した。</p> <p>・スイーツマルシェ、道の駅等で「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」販売促進</p> <p>②広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <p>・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、Instagramフォトキャンペーンを実施し、年度末フォロワー数がXで約1.4万人、Instagramで約1,100人に増加した。</p> <p>・「ひなの郷せんなん」として、リーフレットにより管内及び福島県のひな祭りイベントの紹介と周遊モデルコースを提案した。</p> <p>③みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を4施設制作し、SNSで発信した。</p> <p>④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○
仙南アドベンチャーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	930	<p>子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。</p>	<p>・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信を実施した。</p> <p>2か所のキャンプ場を会場に、キャンプ初心者親子向けのモニターイベントを3回実施した。</p> <p>・1泊2日のキャンプ 川崎町 9月23日～24日 7組24人</p> <p>・日帰りのキャンプ場遊び 川崎町 10月14日 9組29人</p> <p>・日帰りのキャンプイベント 丸森町 10月15日 9組28人</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,848	〃仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2)独自企画 秋冬周遊企画 (3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業”	・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。 ①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2023」(R5.7～9月)を実施。応募総数1,039通 ②推し麺キャンペーン(再掲) ③大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業 ・みやぎ蔵王三十六景サイクルスタンプラリーへの商品提供 ・R5.12.28 村田町での初心者体験ライドにおいて、参加者への補給食等の提供や観光PRを実施(参加者27名)	○
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	令和3年度に開設した公式X(旧Twitter)、令和4年度に開設した公式Instagramをはじめ、ブログやFacebook等のSNSを最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	・管内の魅力ある観光や食をタイムリーに発信するため、ウェブサイトやSNSにより情報発信を実施した。 令和5年度はX(旧Twitter)約930件、Instagramは560件、事務所ウェブサイト約50件、ブログは47件の記事を投稿した。	○
3県(宮城・山形・福島)連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	近年、東北中央道の開通等により、南東北3県(宮城仙南・山形置賜・福島県北)の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力を多くの方に知ってもらい、3県の相互交流を促進するため、各地域の特産であるフルーツや食材を使用したスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3県の計30店舗を周遊して、各地域の特産であるフルーツを使用したスイーツを4品以上購入することで応募可能となる「至福のフルーツスイーツビンゴラリー」を9月1日から12月17日まで開催した。 応募総数110件 総シール枚数1,296枚(参加者1人当たりのシール枚数11.8枚)の応募があった。	○
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	996	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を越えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の連続講座を6コマ開催した。 ①②「インバウンド・観光概論」10/18開催 12人参加 ③④「観光トレンド・情報発信施策づくりワークショップ」 11/7開催 21人参加 ⑤⑥「アルベルゴ・ディフーズまちづくり交流会」 12/7開催 36人参加	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	1,997	仙台圏域が一体となった観光周遊戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	①管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット（40店舗）を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域うまいっちゃ！スタンプラリー」を実施した。合わせてお勧め観光スポット（20か所）をデジタルマップ上に掲載し、周遊促進を図った。 参加者：2,682人 ②食と観光を連携させた取組として、上記スタンプスポット先の飲食店や周辺観光スポット等を情報雑誌「りらく」11月号へ掲載し、食と観光をテーマに地域の魅力発信・周遊促進を図った。 発行部数：5万部 ③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）、仙台国際空港株式会社、JRより講師を招き、令和6年2月14日に研修会を開催した。 参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等52名	○
仙台地域体験型コンテンツ魅力発信事業	仙台地方振興事務所	648	管内の地域資源を活かした魅力的な体験型コンテンツをSNSを通じて県内外に広く発信するもの。	・仙台・松島地域の特徴的な地域資源を生かした体験とその周辺のおすすめ観光スポットや飲食店等を、知名度が高いキャラクターを起用し、Instagramの共同投稿により情報発信を行った。 また、Instagramの広告を活用し効果的に広報を行った。 <紹介スポット> 松島エリア：4箇所、仙台・名取エリア：4箇所、亘理・山元エリア：4箇所 <Instagram投稿内容> リール投稿：13本、フィード投稿：3本 <Instagram広告> 2月29日～3月8日の期間でInstagramの広告を使い、当事業で作成した各スポットを紹介する県のCMSのページに誘導する仕掛けを行った。	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会事業	仙台地方振興事務所	1,166	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会の事務局として、関係市町村等と連携・協働しながら、圏域観光の推進を図る。	①管内市町村の特色PR事業として、10月7日、8日に仙台湾の杜水族館において、観光誘客キャラバン及び管内事業者等による特産品販売会を実施した。 参加市町村数 13市町村 特産品販売会出店者数 11市町から14店舗 ②みやぎせんたい・松島エリア観光ガイドブックの時点修正及び増刷を行った。 作成部数：25,000部 配布箇所数：管内市町村、観光施設等約100か所 ③地場産業振興協議会事業との連携 宮城黒川地域地場産業振興協議会が開催した物産展に観光PRブースを設置しパンフレットの配布等を行った。 名互地場産業振興協議会が開催したJAFドライブスタンプラリー事業のPRと併せて仙台地方振興事務所のSNSアカウントフォローキャンペーンを実施した。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
岩手・宮城県際広域観光推進研究会による情報発信事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所・東部地方振興事務所登米地域事務所・気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	岩手県と宮城県の県際地域における広域観光の推進を図るため、「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」に参画し、観光案内所等におけるパンフレットの相互配架、広域パンフレットの作成等を行う。	・意見交換や現地視察等を行う研究会を2回開催した。 ・当該地域の観光・物産・郷土文化等の情報発信と誘客促進を目的とした「県際マルシェ」を開催した。 ・当該地域の観光地情報等を協力して発信した。	
くりはらマルシェ開催事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	243	栗原地域の物産品のPR販売と合わせて観光PRを実施し、栗原地域への誘客促進を図る。	・県庁1階ロビー(2日間、5事業者)、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターdeくりはらマルシェ(2日間、6事業者)、全国苔フェスティバル in 栗原 2023deくりはらマルシェ(1日、11事業者)において、くりはらマルシェを開催し、商品PRと販路拡大を図った。	
シビックプライド醸成セミナー開催事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	28	栗原管内の観光関連産業従事者等を対象として、地域の魅力を再確認するセミナーを開催する。	・これまで掘り起こしや磨き上げを図ってきた観光コンテンツを地域の方々にとっての「生業」として定着させていくため、また、地域の魅力を再認識してもらい、効果的に案内(発信)するスキルを身につけてもらうことを目的としたセミナーを開催した。 セミナー4日(6コマ)、受講者10名	
関係人口拡大プロモーション事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	1,471	若年層(大学生・専門学校生等)を対象として、地域の企業や団体と連携した「課題解決型合宿」やお手伝い型の体験イベントを実施する。	・若年層(〜30代)を対象とした関係人口拡大に向けた取組を実施した。 取組数3件、参加者計41名	○
体験・宿泊型観光推進事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	720	体験や宿泊を伴う滞在型観光を推進するため、農泊・民泊等開業志向者の掘り起こしにつながるイベントの開催や、開業・経営の伴走型支援を行う。	・農泊、民泊等開業志向者の掘り起こしのためのイベント等の開催 開業応援講座 1回 参加者 5名 ・農泊、民泊等開業志向者への伴走支援や開業後の経営に関する助言 開業サポート 4件、開業相談対応 1件 ・既存農泊、民泊事業者の経営への助言や販路拡大等に必要支援に関する情報提供 訪問による開業支援 2件 事業拡大サポート 1件 ・開業志向者や開業間もない事業者、既存事業者等のネットワークづくりのイベント開催 空き家活用勉強会 2回 参加者 16名	
観光地域づくりチャレンジ事業『栗駒山麓「旅の秋冬コレクション」台湾FIT誘客促進事業』	北部地方振興事務所栗原地域事務所	6,229	取組① 「看板商品」のインバウンド向け磨き上げ及び商品化とFAMツアー等による検証 取組② 恒常的な海外市場への販路形成、販売チャンネル拡大、商品プロモーション促進を目的とした、ランドオペレーターや海外エージェント等との販路基盤構築(OTA3社、海外旅行会社2社) 取組③ 上記①及び②の取組を経て、絞り込んだターゲット及び市場に対して実際に販売(OTA3社による販売)するとともに、継続的な販売に向けて検証・フィードバックを実施。	・観光コンテンツ造成・商品化 秋冬コンテンツ 5種類 ・FAMツアー 2回実施、延べ8人参加 東北地域のインバウンド情勢に精通している専門家4名によるFAMツアーを実施。アドバイス等を商品に反映させた。 ・旅行商品の販売 OTAを中心に10商品を販売。2商品に各4名の申し込みを受け、催行した。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
栗駒山麓広域連携事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	— (非予算)	栗駒山を共通の観光資源とする岩手県、秋田県と連携し、栗駒山麓の登山マップや広域観光パンフレットの作成、配架等を行う。	・栗駒山トレッキングMAPや、各県事務所のイベントに関するポスター・パンフレットを相互に配架した。	
観光と食の魅力発信支援事業	東部地方振興事務所	475	観光関係団体や商工団体、事業者等と連携し、地域の観光や食の魅力を隣接県の道の駅等において情報発信することにより、地域食材等の知名度向上や売上の増加、交流人口の拡大による観光消費額の増加を図る。	・地域の観光と食のPRを目的として、福島県国見町において、「石巻地域の物産と観光展 in あつかしの郷」を開催した。 日数 10日間、出店数 延べ6店舗 ・地域の観光と食のPRを目的として、山形県米沢市において、「石巻地域の物産と観光展 in 上杉城史苑」を開催した。 日数 2日間、出店数 延べ3店舗 ・石巻復興フード見本市や大型客船入港等のイベントと連携した観光PR、ホームページやSNS、ロビーショーケースにおけるイベントや特産品の情報を発信した。 SNS (3媒体)投稿数 501件 ・「いいねっいのまきフォトキャンペーン」を開催し、応募873件、フォロワー1,758人→1,930人 (172人増)	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会による情報発信事業	東部地方振興事務所・気仙沼地方振興事務所	1,254	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会の事務局として、関係市町や観光関係団体等と連携しながら観光資源の広報宣伝等を実施し、石巻・気仙沼地域への交流人口の拡大を図るとともに、観光を活かした地域振興を推進する。	・S-style (観光雑誌12月号及びWEBページ)に、三陸エリア情報を掲載し、PRした。 発行部数 5万部 ・三陸地域の周遊促進を目的として「みやぎ三陸エリアドライブマップ」を作成・配布した。 発行部数 3万部 ・地域の観光資源を県内旅行業者に直接訴求し、魅力的な旅行商品の造成に繋げるための商談会に参加し、三陸地域の観光PRを実施した。	○
地域支援事業 (地域振興型)	東部地方振興事務所	1,830	震災からの復興が進んだ石巻圏域の新たな観光資源をあなご、ほや雑煮、石巻せり鍋等の「食」やみちのくGOLD浪漫に認定された金華山、世界の持続可能な観光地Top100に認定された東松島市等の視点から再発見し、更なる関係人口・交流人口の拡大を目指す。	・石巻圏域における「みちのく潮風トレイル」と「寿司・海鮮」の認知度向上のため、体験モニターツアー(みちのく潮風トレイルツアー、寿司・海鮮体験ツアー)を実施したもの。 みちのく潮風トレイルツアー:13名参加(北海道、青森、岩手、埼玉、栃木、千葉、東京他) 寿司・海鮮体験ツアー:20名参加(岩手、福島、静岡他)	○
地元定着意識醸成事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	567	登米市内の中高校生等を対象に、登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史に触れる機会を作るほか、登米地域の魅力を発信できる人材を育成することで、若者の地元定着意識の醸成を図る。	・「みやぎの明治村歴史探訪」の開催(R5.10月、R5年11月、R5年12月) 登米市内の中高校生等を対象に観光ガイドから登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史について学ぶことができるイベントを開催した。(計3回開催、参加者14名)	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
体験型観光コンテンツ掘り起こし・磨き上げ事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	90	登米市内外の小学生を対象に、登米の魅力に触れることができるクラフトツーリズム体験及びグリーンツーリズム体験をテーマとした体験会を開催するとともに、登米地域内の農泊施設について、近隣地域と連携し、継続的にフォローアップ支援を行うことにより、体験型観光コンテンツの掘り起こし及び磨き上げを図る。	①登米の魅力体験会の開催 ・小学生の親子を対象に登米市の魅力を発見してもらうことを目的とした「小学生の親子対象 登米の魅力体験会」を開催した。 開催日・参加者数：グリーンツーリズム編 R5. 10. 29・10名、クラフトツーリズム編 R5. 11. 25・12名  ②登米の農泊等の運営フォローアップ支援 ・登米地域内の農泊施設について、各施設の課題や要望についてのアンケート調査や宿泊受入状況についてヒアリングを実施した。その結果をもとに、体験型コンテンツ作成やそれらを提供する上で実施するべきリスク管理をテーマとした研修会を企画。東部地方振興事務所農業振興部と連携し、ワークショップ形式で「農泊運営者向け体験コンテンツづくり研修会」を開催した。 開催日：R6. 2. 15	
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城オルレフェア 2023」のコースイベント（10/9）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともに、イベント運営業務に従事した。	○
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	2,000	アウトドアコンテンツに取り組む当圏域の観光プレイヤーとの連携のもと、当該コンテンツへの誘客と、その魅力発信のため、地元 YouTuber による情報発信を行うとともに、アウトドアアクティビティを体験するイベントを開催する。	・管内の観光資源の魅力を発信するため、代表的なアクティビティであるトレッキングイベントに地元人気 YouTuber を招聘し、その体験動画を当該 YouTuber のチャンネルで配信した。 フォロワー：140万人 配信回数：1回（視聴数：3万回） ・釣りやマリンスポーツなど海を中心としたアウトドアアクティビティのほか、多様な体験コンテンツに関する動画を地元人気 YouTuber のチャンネルで配信した。 フォロワー：10万人 配信回数：4回（視聴数：気仙沼夏編 2.2万回、気仙沼冬編 2.6万回、南三陸夏編 1.6万回、南三陸冬編 1.9万回）	○
スタッフブログ「南三陸&気仙沼を体感！来て見て浜ライン」	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・本吉地域の復旧・復興情報や見所、イベント情報などについて、取材を通じて情報収集し、ブログにより情報発信を行う。	・気仙沼・本吉地域で活躍する人材にスポットを当てて取材し、情報発信を行った。 投稿数：1件	○
湿地環境保全・利活用事業	自然保護課	45,424	多種多様な生物が息づく淡水湖沼の生態系を有していた伊豆沼・内沼への再生を目指し、沈水植物や在来生物を増加させるための自然再生事業を実施するとともに、ワイズユースの推進及び普及啓発のため、ラムサール条約湿地の魅力を発信し、自然との触れ合いによる環境教育の場の整備を図る。	・地元関係者や専門家で構成される伊豆沼・内沼自然再生協議会との連携を図りながら、外来種駆除や在来生物の増殖事業等の自然再生事業を実施した。また、湿地の魅力を発信するため、水生植物園内に水生植物の解説看板の設置（2基）、観察水路の拡張や足場の設置や体験プログラムの設計を行った。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
蔵王芝草平保全対策事業	自然保護課	77,998	キンコウカ、イワシヨウブなど高山植物の宝庫となっている蔵王国定公園の芝草平は、植生の破壊が進んだことから平成18年度に木道を設置、公園利用者の無秩序な立入を防止し、植生の保護を図っている。 この木道が経年劣化により利用者に危険を及ぼす恐れがあることから、老朽化対策として木道の更新を行う。	・木道等の更新工事の実施 木道 (L=0.09km)、ステージ (2基)、ベンチ (6基)	
「東北文化の日」推進事業	消費生活・文化課	1,004	東北全体の文化力の発揮を目指すとともに文化施設を基点として圏域内外の交流人口の拡大を図るため、東北6県及び仙台市が一体となり東北圏域の特色ある文化資源の情報を総合的に発信する。	・東北6県及び仙台市が中心となり、ガイドブックやポスター、HPを通じて、東北県内の市町村及び文化施設等のイベント広報を行った。 「東北文化の日」令和5年10月28日(土)、29日(日) 関連イベント開催期間 令和5年10月28日(土)から11月26日(日)まで 施設数 231施設 イベント数 268イベント 総参加者数 701,546人	
首都圏県産品販売等拠点運営事業	食産業振興課・東京事務所	204,045	県産品の紹介・販路拡大及び観光案内・宣伝のため、首都圏アンテナショップの運営管理を行う。	・東京アンテナショップの存在や県産品が、テレビ、雑誌等の様々なメディアで取り上げられ、県産品の販路・消費の拡大に貢献し、年間の売上は5.3億円となった。	
物産展等開催事業	食産業振興課	8,488	県外主要都市の百貨店で物産展を開催し、県産品の販売及び観光情報の発信を行う。	・5都市(池袋、千葉、横浜、名古屋、広島)の百貨店で物産展を開催し、2.5億円の売上となった。	
地域イメージ確立推進事業	食産業振興課	1,605	多彩で豊富な「食」を創出する県という地域イメージの確立のため、知事等によるトップセールスやSNSを活用した宮城の食材に関する情報発信を行う。	・「食材王国みやぎ」の地域イメージ確立のため、首都圏の大型小売店においてトップセールスによるPRを1回実施した。 ・「食材王国みやぎ」公式SNS(Facebook及びInstagram)等で情報発信を行うとともに、県産品のプレゼント企画を3回実施した結果、Instagramのフォロワー数が約3,600人となった。	
県産ブランド品確立支援事業	食産業振興課	4,992	県産食材の高付加価値化及び販売力の強化のため、品質の良さに加え、消費者・実需者の共感・感動を生むストーリーを持つ県産ブランド品の確立を図る。	・首都圏のホテル等の料理人を県内の産地に招へいし、県産食材を使用したみやぎフェアの開催(5件20店舗、述べ321日)を支援した。 ・「みやぎの『食』ブランド化推進方針」を踏まえて策定した「せり」及び「メカジキ」のブランド化戦略に基づき、春せりの消費拡大のための飲食店フェアの開催(10店舗、延べ31日)、メカジキの生食の定着を図るための飲食店フェアの開催(20店舗、延べ31日)などのPR施策を実施した。	
食育・地産地消推進事業	食産業振興課	6,010	食育、地産地消を通じた県産農林水産物の販路拡大のため、地産地消推進店と連携した県産農林水産物のPR、高校生を対象とした「お弁当コンテスト」、小・中学生を対象とした「伝え人派遣事業」による食育を推進する。	・高校生地産地消お弁当コンテストを開催(応募件数18校88作品)し、入賞した3作品が協賛企業とのコラボレーション商品として一般販売された。 ・食材王国みやぎ伝え人を小・中学校等へ34回派遣した。定支援を実施した。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
みやぎの食材バリューチェーン構築プロジェクト	食産業振興課	21,885	今後、県内で生産拡大が見込まれている農産物に対して、一次加工や事業者間による対応を促進するとともに、マーケティングに基づいた商品開発から食材王国みやぎのブランドイメージの浸透を踏まえた販路開拓の支援まで、食産業の各段階における付加価値を高めることにより、食のバリューチェーンを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付加価値の高い商品づくりを支援するため、14者に対し商品開発経費の一部を補助した結果、各事業者が新商品を開発することができた。そのうち7者については、未利用資源を活用するなど環境に配慮した商品開発に繋がった。</li> <li>・また、商談機会を創出するため、山形県等と連携して展示商談会を実施し、県内食品製造業者等52者が県内外のバイヤーと商談を行ったほか、首都圏の大規模商談会に宮城県ブースを出展し、県内事業者22者が自社製品を広くPRするとともに商談を行った。</li> </ul>	
デジタルマーケティングを核とした県産品販売促進モデル構築事業	食産業振興課	55,496	県産品へ関心をもつ顧客層の把握と効果的な誘客を図る新たな販売支援の仕組み「県産品販売促進モデル」を構築し、県産品の製造・販売事業者を対象として「県産品のEC販売拡大」及び「デジタルマーケティングに係る人材育成」を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県産品の魅力と県産品販売事業者のオンラインショップを紹介するアンテナサイト「宮城旬鮮探訪」及び楽天市場内県産品特集ページ「宮城県WEB物産展」を管理運営し、そこで得られたデータをセミナーにおいて県内事業者へフィードバックした。</li> </ul>	
むらまち交流拡大推進事業	農山漁村なりわい課	3,495	農山漁村と都市の交流活動を推進するため、地域の受入体制づくりと交流活動に向けた広報や情報発信を行う。また、広域ネットワーク組織を設置し、地域間の連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農泊地域のニーズに合わせたテーマ別研修会、交流会開催</li> <li>・農泊地域紹介動画作成（2地域）</li> <li>・農山漁村交流アドバイザー派遣の実施（6回）</li> </ul>	
地域資源・キャリア人材フル活用事業	農山漁村なりわい課	6,124	農山漁村地域において、農泊等の受入体制づくりや都市と地域の交流に向けたコーディネーター人材の育成を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎのINAKA応援隊による地域活動実施</li> <li>・交流拡大に向けた受入体制構築・活動支援（5地域）</li> <li>・都市人材・企業連携コーディネーター育成（2地域）</li> </ul>	
シン・令和のむらづくり推進事業（しごと・くらし体験）	農山漁村なりわい課	4,446	農山漁村地域に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大を図るため、県内外の社会人や学生を対象とした各種プログラムを通じ、「新たな地域滞在型交流」を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域滞在型交流プログラムの作成支援（2地域）</li> </ul>	
マツ林景観保全事業	森林整備課	12,415	松くい虫等による被害からマツ林の景観を保全するため、抵抗性マツの植栽や予防対策を実施するとともに、新たな技術を取り入れた景観保全対策を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹幹注入 1,075本</li> <li>被害材搬出利用 195.28㎡</li> </ul>	
みやぎの景観形成事業	都市計画課	223	景観形成に係る普及啓発及び市町村の景観計画策定の支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観資源を生かしたまちづくりへの意識形成を行うため、国と共同で景観行政セミナー（参加市町村:8市町、参加人数:22人）を実施した。</li> <li>・歴史的建造物の保存と周辺環境の整備に取り組んでいる登米市において先進地視察・意見交換（参加市町村:9市町、参加人数:16人）を行い、自治体職員の景観形成に係る普及啓発を行った。</li> <li>・景観計画未策定の仙台湾沿岸4市町（名取市、岩沼市、亘理町、山元町）を対象とした広域景観の勉強会を開催し、景観アドバイザーによる講演を行い（参加市町:4市町、参加者:9人）、自治体職員の景観に関する意識醸成を行った。</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台港周辺地域における賑わい創出事業	公営事業課	— (非予算)	仙台港周辺地域に立地する企業を中心に設立された官民連携組織である「仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム」を推進母体として、仙台港周辺地域のポテンシャルを活かした観光資源の磨き上げを図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングを通じ、仙台港周辺地域の自然や、商業・工業地域などの景色を楽しみながら歩いてもらうことで地域の魅力を発見してもらうことを目的に「みなとオアシス仙台港ウォーク」を実施した。(154名の参加)</li> <li>・なお、取組は仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム会員企業の年会費を事業費として実施している。</li> </ul>	
多賀城創建1300年記念総合整備活用事業	文化財課	15,945	多賀城創建1300年となる令和6年の公開を目指し、多賀城の中軸部である政庁跡から南門に至る地域を集中整備し、観光資源として磨き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度から施工していたの復元工事が完了した。</li> <li>城前官衙遺構表示工(建物柱・床面復元など)</li> <li>園路の整備</li> <li>張芝</li> </ul>	
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	2,479	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介パネル展10回</li> <li>・小中学生向けイベント4回、参加34人</li> <li>・講演対応9件(参加者537名)</li> <li>・公式SNSによる情報発信(フォロワー696人)</li> <li>・文化財亚克力スタンドカプセルトイ1,400個(販売880個)</li> <li>・ハンドブック製作500冊(販売161冊)</li> <li>・文化財カード製作800枚(配布はR6から)</li> </ul>	
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	7,150	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史講座等を開催し、延べ214人の参加により多賀城跡の理解促進につながった。</li> <li>・令和4年度に制作した多賀城跡の高精度3D測量データ(多賀城跡VRマップ)と最新の復元研究を活用して、古代建物復元CG(城前官衙ほか)など、VRを活用してじっくり観察する「デジタルミュージアム」体験プログラムを開発した。</li> </ul>	

## (2) 観光に対する地域住民や旅行者の意識醸成

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課 (観光政策課)	66,438	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(113件、延べ4,950名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、269件、31,140,000円を交付した。</li> </ul>	○
フィルムコミッション推進事業	観光戦略課 (観光政策課)	2,044	映画、テレビを通じて当県の魅力を内外に広く発信し、当県の知名度向上と観光集客力の強化を推進するため、「せんだい宮城フィルムコミッション」に参画して、映画、テレビ等の撮影のロケーションの誘致、支援等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「せんだい・宮城フィルムコミッション」の所属団体として、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組に対して支援した。</li> <li>「せんだい・宮城フィルムコミッション」における支援件数190件、撮影実績35件</li> </ul>	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課 (観光政策課)	658	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計11回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。</li> </ul>	○
観光誘客推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	72,028	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みやぎ応援ポケモン」ラプラスを活用した事業のほか、コンテンツツーリズム促進のためのマップ作製、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。</li> <li>「ラプラス+海巡り」 エントリーユーザー数1,308人</li> <li>「阿武急 ラプラス&amp;ラッキートレインでGO! アブQからの挑戦状」参加者数892人</li> <li>「仙台・宮城アニメ・漫画ゆかりの地探訪MAP」(せんだい・宮城フィルムコミッションと共同製作) 発行部数30,000部</li> <li>宮城県公式 SNS 運営 Instagram 投稿数233 (フォロワー数約7400人増)</li> </ul>	○
仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	12,307	仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用した本県観光のPR活動を実施し、県内への誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発地側でのイベント等における本県の観光キャンペーンの告知及び本県観光情報のPR活動、着地側でのツアー観光客のお出迎え、県内の観光素材発掘、動画撮影、SNSを利用したむすび丸によるPR動画の配信等を実施した。</li> <li>むすび丸による観光PR、おもてなし129回</li> <li>メディア出演等15本</li> </ul>	

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
宮城オルレ推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	73,011	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内観光向けには「宮城オルレフェア 2023(R5. 8. 21～11. 30)」を開催し、400人以上が参加した(平成30年10月の宮城オルレオープン以降の延べ利用者数:約6.2万人)。</li> <li>・11月11日に村田コースオープニングイベントを開催し、海外からのトレッキング関係団体及びメディア招請者を含め、約900人が参加した。</li> <li>・九州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、パンフレット配布・物販を実施した。</li> <li>・海外観光向けには、済州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、パンフレット等を配布した。</li> </ul>	○
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課(観光政策課)	3,838	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵王町遠刈田地区等の3地区をモデル地域とし、意見交換会(2回)を開催したほか、遠刈田地区と鳴子温泉において、地域の担い手と連携しながら新たな賑わい創出に向けたイベントを開催した。</li> </ul>	○
宮城マスター検定事業	富県宮城推進室	872	ご当地検定の形式を用いて、宮城の特産品、観光地、イベント等産業関係の情報を中心に広く県内外にPRすることにより、宮城県の地域資源、産業全般に関する認知度を高めるとともに、地域産業の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の魅力を県内外に発信するため、宮城マスター検定1級試験を実施し、235人が受験したほか、出前講座を4回開催し、229人が参加した。</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,261	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>・仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。</p> <p>①食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域をくまなく周遊するよう、参加39店舗を3つのエリアに分け、各エリアでおくずかけ、そば、ラーメン等指定メニュー1品を購入することで応募できる「推し麺キャンペーン」を、3県連携広域周遊促進事業と同時期（9月1日～12月17日）に実施した。応募総数185件、総シール数1,317枚</li> <li>・3県（山形、福島）連携マルシェ（11月3、4日）の実施（来場者数約9,000人）</li> <li>・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを年4回開催（5、6、10、2月）</li> <li>・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨4社6品目、推奨品目数81品目）とともに、リーフレットやシール、POPによる販売促進を実施した。</li> <li>・スイーツマルシェ、道の駅等で「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」販売促進</li> </ul> <p>②広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、Instagramフォトキャンペーンを実施し、年度末フォロワー数がXで約1.4万人、Instagramで約1,100人に増加した。</li> <li>・「ひなの郷せんなん」として、リーフレットにより管内及び福島県のひな祭りイベントの紹介と周遊モデルコースを提案した。</li> </ul> <p>③みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を4施設制作し、SNSで発信した。</li> </ul> <p>④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○
3県（宮城・山形・福島）連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	<p>近年、東北中央道の開通等により、南東北3県（宮城仙南・山形置賜・福島県北）の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力を多くの方に知ってもらい、3県の相互交流を促進するため、各地域の特産であるフルーツや食材を使用したスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。</p>	<p>・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3県の計30店舗を周遊して、各地域の特産であるフルーツを使用したスイーツを4品以上購入することで応募可能となる「至福のフルーツスイーツビンゴラリー」を9月1日から12月17日まで開催した。応募総数110件 総シール枚数1,296枚（参加者1人当たりのシール枚数11.8枚）の応募があった。</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	996	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	<p>・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を越えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の連続講座を6コマ開催した。</p> <p>①②「インバウンド・観光概論」10/18開催 12人参加</p> <p>③④「観光トレンド・情報発信施策づくりワークショップ」11/7開催 21人参加</p> <p>⑤⑥「アルベルゴ・ディフーズまちづくり交流会」12/7開催 36人参加</p>	○
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	1,997	仙台圏域が一体となった観光周遊戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	<p>①管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット（40店舗）を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域うまいっちゃ！スタンプラリー」を実施した。合わせてお勧め観光スポット（20か所）をデジタルマップ上に掲載し、周遊促進を図った。 参加者：2,682人</p> <p>②食と観光を連携させた取組として、上記スタンプスポット先の飲食店や周辺観光スポット等を情報雑誌「りらく」11月号へ掲載し、食と観光をテーマに地域の魅力発信・周遊促進を図った。 発行部数：5万部</p> <p>③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）、仙台国際空港株式会社、JRより講師を招き、令和6年2月14日に研修会を開催した。 参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等52名</p>	○
仙台地域体験型コンテンツ魅力発信事業	仙台地方振興事務所	648	管内の地域資源を活かした魅力的な体験型コンテンツをSNSを通じて県内外に広く発信するもの。	<p>・仙台・松島地域の特徴的な地域資源を生かした体験とその周辺のおすすめ観光スポットや飲食店等を、知名度が高いキャラクターを起用し、Instagramの共同投稿により情報発信を行った。また、Instagramの広告を活用し効果的に広報を行った。</p> <p>&lt;紹介スポット&gt; 松島エリア：4箇所、仙台・名取エリア：4箇所、亘理・山元エリア：4箇所</p> <p>&lt;Instagram投稿内容&gt; リール投稿：13本、フィード投稿：3本</p> <p>&lt;Instagram広告&gt; 2月29日～3月8日の期間でInstagramの広告を使い、当事業で作成した各スポットを紹介する県のCMSのページに誘導する仕掛けを行った。</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会事業	仙台地方振興事務所	1,166	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会の事務局として、関係市町村等と連携・協働しながら、圏域観光の推進を図る。	<p>①管内市町村の特色PR事業として、10月7日、8日に仙台南の杜水族館において、観光誘客キャラバン及び管内事業者等による特産品販売会を実施した。 参加市町村数 13市町村 特産品販売会出店者数 11市町から14店舗</p> <p>②みやぎせんだい・松島エリア観光ガイドブックの時点修正及び増刷を行った。 作成部数：25,000部 配布箇所数：管内市町村、観光施設等約100箇所</p> <p>③地場産業振興協議会事業との連携 宮城黒川地域地場産業振興協議会が開催した物産展に観光PRブースを設置しパンフレットの配布等を行った。 名亘地場産業振興協議会が開催したJAFドライブスタンプラリー事業のPRと併せて仙台地方振興事務所のSNSアカウントフォローキャンペーンを実施した。</p>	○
シビックプライド醸成セミナー開催事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	28	栗原管内の観光関連産業従事者等を対象として、地元の魅力を再確認するセミナーを開催する。	<p>・これまで掘り起こしや磨き上げを図ってきた観光コンテンツを地域の方々にとっての「生業」として定着させていくため、また、地域の魅力を再認識してもらい、効果的に案内（発信）するスキルを身につけてもらうことを目的としたセミナーを開催した。 セミナー4日（6コマ）、受講者10名</p>	○
地元定着意識醸成事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	567	登米市内の中高生等を対象に、登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史に触れる機会を作るほか、登米地域の魅力を発信できる人材を育成することで、若者の地元定着意識の醸成を図る。	<p>・「みやぎの明治村歴史探訪」の開催（R5.10月、R5年11月、R5年12月） 登米市内の中高生等を対象に観光ガイドから登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史について学ぶことができるイベントを開催した。（計3回開催、参加者14名）</p>	○
体験型観光コンテンツ掘り起こし・磨き上げ事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	90	登米市内外の小学生を対象に、登米の魅力に触れることができるクラフトツーリズム体験及びグリーンツーリズム体験をテーマとした体験会を開催するとともに、登米地域内の農泊施設について、近隣地域と連携し、継続的にフォローアップ支援を行うことにより、体験型観光コンテンツの掘り起こし及び磨き上げを図る。	<p>①登米の魅力体験会の開催 ・小学生の親子を対象に登米市の魅力を発見してもらうことを目的とした「小学生の親子対象 登米の魅力体験会」を開催した。 開催日・参加者数：グリーンツーリズム編 R5.10.29・10名、クラフトツーリズム編 R5.11.25・12名</p> <p>②登米の農泊等の運営フォローアップ支援 ・登米地域内の農泊施設について、各施設の課題や要望についてのアンケート調査や宿泊受入状況についてヒアリングを実施した。その結果をもとに、体験型コンテンツ造成やそれらを提供する上で実施するべきリスク管理をテーマとした研修会を企画。東部地方振興事務所農業振興部と連携し、ワークショップ形式で「農泊運営者向け体験コンテンツづくり研修会」を開催した。 開催日：R6.2.15</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
宮城県戦略的魅 力発信事業	広報課	21,265	県内外に向け、宮城の様々な魅力を総合・横 断的に広報する。	・全国放送網のテレビを活用したパブリ シティにより、宮城の様々な魅力を発信 し、4企画の露出を獲得した。また、宮 城の魅力を紹介するショート動画38本 をSNSで公開し、若年層を中心に幅広い 世代に訴求を図った。	○
湿地環境保全・ 利活用事業	自然保護課	45,424	多種多様な生物が生息する淡水湖沼の生態系 を有していた伊豆沼・内沼への再生を目指し、 沈水植物や在来生物を増加させるための自然 再生事業を実施するとともに、ワイズユース の推進及び普及啓発のため、ラムサール条約 湿地の魅力を発信し、自然との触れ合いによ る環境教育の場の整備を図る。	・地元関係者や専門家で構成される伊豆 沼・内沼自然再生協議会との連携を図り ながら、外来種駆除や在来生物の増殖事 業等の自然再生事業を実施した。また、 湿地の魅力を発信するため、水生植物園 内に水生植物の解説看板の設置(2基)、 観察水路の拡張や足場の設置や体験プ ログラムの設計を行った。	○
蔵王芝草平保全 対策事業	自然保護課	77,998	キンコウカ、イワショウブなど高山植物の宝 庫となっている蔵王国定公園の芝草平は、植 生の破壊が進んだことから平成18年度に木道 を設置、公園利用者の無秩序な立入を防止し、 植生の保護を図っている。 この木道が経年劣化により利用者に危険を及 ぼす恐れがあることから、老朽化対策として 木道の更新を行う。	・木道等の更新工事の実施 木道(L=0.09km)、ステージ(2基)、 ベンチ(6基)	○
自然の家人と自 然の交流事業	生涯学習課	1,972	各県立自然の家の立地環境を生かし、自然環 境への興味関心を高める自然体験活動プログ ラムを実施する。	・各自然の家で自然環境への興味関心を 高める自然体験活動プログラムを実施 した。 ＜蔵王自然の家＞ めざせ！蔵王マイスター(全3回)各 回20人参加 蔵王に登ろう！山ガール教室(全3回) ①39名②44名29名 野外活動指導者研修会 23名参加 リフレッシュ in 蔵王 26名参加 ＜松島自然の家＞ バードウォッチング入門 27名参加 未知の宮戸島ウオーク1 30名参加 ＜志津川自然の家＞ シュノーケリング入門 26名参加 バードウォッチング入門(全2回)①22 名②23名 親子でウインターチャレンジ 24名 参加	

(3) 震災の経験を生かした復興ツーリズムや教育旅行の展開

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課 (観光政策課)	66,438	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(113件、延べ4,950名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、269件、31,140,000円を交付した。</li> </ul>	○
風評被害等観光客実態調査事業	観光戦略課 (観光政策課)	10,571	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内主要観光地での観光客(外国人観光客含む)へのアンケート調査(県内13地点・四半期毎)及び全国の一般消費者を対象にWEBアンケート調査(6,500票)にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。</li> </ul>	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課 (観光政策課)	658	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計11回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。</li> </ul>	○
地域支援事業 (地域振興型)	東部地方振興事務所	1,830	震災からの復興が進んだ石巻圏域の新たな観光資源をあなご、ほや雑煮、石巻せり鍋等の「食」やみちのく GOLD 浪漫に認定された金華山、世界の持続可能な観光地 Top 100 に認定された東松島市等の視点から再発見し、更なる関係人口・交流人口の拡大を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石巻圏域における「みちのく潮風トレイル」と「寿司・海鮮」の認知度向上のため、体験モニターツアー(みちのく潮風トレイルツアー、寿司・海鮮体験ツアー)を実施したもの。</li> <li>みちのく潮風トレイルツアー:13名参加(北海道、青森、岩手、埼玉、栃木、千葉、東京他)</li> <li>寿司・海鮮体験ツアー:20名参加(岩手、福島、静岡他)</li> </ul>	○
首都圏復興フォーラム事業運営	復興支援・伝承課	1,500	東日本大震災の風化防止と震災復興に対する全国からの幅広い支援の継続を訴えるため、青森・岩手・福島の被災各県及び東京都と連携し、被災地の復興状況や復興に向けた取組を首都圏の住民やマスコミに広く情報提供するフォーラムを開催する。	<p>①現地イベント                      期間:令和6年3月7日(木)から令和6年3月11日(月)まで                      会場:汐留シオサイト(東京都港区東新橋1-5-25)                      内容:各県ゆかりの著名人のメッセージ動画の掲載/各県の復興を支える人々のオリジナルムービー放映/「復興のあゆみ」パネル展示/震災伝承施設紹介/観光情報提供/被災地支援取組パネル展示/VR視聴体験/県産品の販売/ご当地スイーツ販売/復興サカバ(酒類販売、地酒バー)などの実施により、被災地の復興に対する来場者の機運の醸成を図る。                      来場者数:6,741人</p> <p>②SNSキャンペーン                      期間:令和6年2月1日(木)12:00~令和6年3月11日(土)23:59                      内容:とっておきの東北(青森県、岩手県、宮城県、福島県)をInstagramまたはX(旧Twitter)で投稿していただく。                      応募数:1,247件</p>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
東日本大震災被災地情報発信事業	復興支援・伝承課	21,991	東日本大震災の風化防止につなげるため、来県者向けに県内の主要な風化防止・伝承施設を紹介する多言語対応の冊子等を作成し、情報発信を行うほか、被災地の復興支援に向けた魅力発信として、広報誌や動画などを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子「みやぎ・復興の歩み13」、広報紙「Baton」、「東日本大震災復興情報コーナー」等の広報媒体を活用し、復興情報の発信を図ったほか、オンラインコンテンツの多言語化を実施した。</li> <li>冊子「みやぎ・復興の歩み13」</li> <li>令和6年3月に10,000部発行し、公共施設を中心に約2,200カ所へ発送。</li> <li>広報紙「Baton」</li> <li>年4回、各17,500部の発行、動画も作成。</li> <li>オンラインコンテンツの整備</li> <li>県ウェブサイト内で整備した「みやぎオンライン伝承館」で視聴できるインタビュー動画の多言語化（R5は繁体字）を行った。</li> </ul>	
交流人口拡大による被災地活性化事業	復興支援・伝承課	6,000	東北観光推進機構と連携し、マーケティング等を行い、東北DMPを活用し誘客を見据えた現状分析と今後の被災地に交流人口を増やしていくための戦略の構築、既存ツールに震災伝承を切り口としたコンテンツの追加に加え、関係者のモニターツアーの実施や満足度調査の実施等に取り組むことで磨き上げを行い、継続的に人を呼び込むことができる仕組みの構築を目指し、その後のプロモーションにつなげていくもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北DMPやCRMシステムを活用したマーケティングとモデルコースの造成</li> <li>対象地域：気仙沼・南三陸エリア、石巻・松島エリア、仙台・名取エリア、県南エリア</li> <li>・モニターツアーとその後のアンケート調査による磨き上げの実施</li> <li>・東北観光推進機構ウェブサイトにおいて情報整備及びCRM記事発信を実施したほか、特設サイトや「じゃらん」とタイアップしたパンフレット作成を行った。</li> </ul>	
震災伝承教育旅行受け入れ体制強化事業	復興支援・伝承課	2,886	教育旅行や企業研修等、県外からの誘客受け入れ態勢を構築するため、県内伝承団体のPRツールの作成やデータベース化等を行うもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内伝承団体等へのヒアリングを実施し、教育旅行等のニーズを踏まえた受入先の磨き上げを行うとともに、団体毎の実施プログラムの特色や対象等をまとめたタリフ表を作成したほか、教育旅行等誘致プロモーションでの発信を行った。</li> <li>今年度実施地域・ヒアリング実施箇所数：仙台地区4箇所</li> <li>プロモーション実施数：1回</li> </ul>	
震災復興・伝承みやぎルート整備事業	道路課	220,000	自転車を活用した観光地域づくりを通じて、サイクルツーリズムの促進や地域活性化を支援するため、「宮城県自転車活用推進計画」に基づき、自転車通行環境の整備等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩竈市内、多賀城市内、七ヶ浜町内の県道塩釜七ヶ浜多賀城線の自転車走行環境整備を推進した。</li> </ul>	

成長戦略1 合計 91事業 1,869,968千円

成長戦略2 観光産業の体制強化

農林水産業等の関連産業との連携強化等により、体験型プログラムの充実によるコト消費への転換を図ったほか、映画・アニメ等の舞台を巡るコンテンツツーリズムを積極的に展開した。また、観光産業を牽引する「人材」の育成と活躍できる環境づくりの取組を推進した。

(1) 地域経済循環力の強化

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課 (観光政策課)	66,438	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(113件、延べ4,950名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、269件、31,140,000円を交付した。</li> </ul>	○
フィルムコミッション推進事業	観光戦略課 (観光政策課)	2,044	映画、テレビを通じて当県の魅力を内外に広く発信し、当県の知名度向上と観光集客力の強化を推進するため、「せんだい宮城フィルムコミッション」に参画して、映画、テレビ等の撮影のロケーションの誘致、支援等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「せんだい・宮城フィルムコミッション」の所属団体として、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組に対して支援した。</li> <li>「せんだい・宮城フィルムコミッション」における支援件数190件、撮影実績35件</li> </ul>	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光戦略課 (観光政策課)	221,843	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備(蔵王、気仙沼大島等)などを行ったほか、広域観光案内板の盤面更新(仙台駅西口等)を行った。</li> </ul>	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課 (観光政策課)	658	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計11回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。</li> </ul>	○
宮城ワーケーション情報環境整備推進事業	観光戦略課 (観光政策課)	1,455	宮城におけるワーケーションの一層の普及促進を図るため、県内のワーケーション施設等の情報を一元化したポータルサイトを構築し、効果的な情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度に開設したWEBサイト「Miwork 宮城」において、ワークスペース、宿泊施設及び観光施設等のワーケーション情報を一元化して発信することで、宮城のワーケーションの普及促進及び利用者の利便性向上に努めた。</li> <li>掲載施設数：128件</li> <li>総ページビュー数：49,345ビュー</li> </ul>	○
観光誘客推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	72,028	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みやぎ応援ポケモン」ラプラスを活用した事業のほか、コンテンツツーリズム促進のためのマップ作製、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。</li> <li>「ラプラス+海巡り」 エントリーユーザー数1,308人</li> <li>「阿武急 ラプラス&amp;ラッキートレインでGO! アブQからの挑戦状」参加者数892人</li> <li>「仙台・宮城アニメ・漫画ゆかりの地探訪MAP」(せんだい・宮城フィルムコミッションと共同製作) 発行部数30,000部</li> <li>宮城県公式SNS運営 Instagram投稿数233(フォロワー数約7400人増)</li> </ul>	○

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	観光戦略課 (観光政策課)	12,307	仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用した本県観光のPR活動を実施し、県内への誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発地側でのイベント等における本県の観光キャンペーンの告知及び本県観光情報のPR活動、着地側でのツアー観光客のお出迎え、県内の観光素材発掘、動画撮影、SNSを利用したむすび丸によるPR動画の配信等を実施した。</li> <li>むすび丸による観光PR、おもてなし129回</li> <li>メディア出演等15本</li> </ul>	○
宮城オルレ推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	73,011	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内観光に向けには「宮城オルレフェア2023(R5.8.21~11.30)」を開催し、400人以上が参加した(平成30年10月の宮城オルレオープン以降の延べ利用者数:約6.2万人)。</li> <li>11月11日に村田コースオープニングイベントを開催し、海外からのトレッキング関係団体及びメディア招請者を含め、約900人が参加した。</li> <li>九州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、パンフレット配布・物販を実施した。</li> <li>海外観光向けには、済州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、パンフレット等を配布した。</li> </ul>	○
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課 (観光政策課)	3,838	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>蔵王町遠刈田地区等の3地区をモデル地域とし、意見交換会(2回)を開催したほか、遠刈田地区と鳴子温泉において、地域の担い手と連携しながら新たな賑わい創出に向けたイベントを開催した。</li> </ul>	○
みやぎの伝統的工芸品産業振興事業	新産業振興課	9,124	国及び県指定の伝統的工芸品について、新商品開発や販路拡大等の支援を行い、伝統工芸産業の普及・振興を図るとともに、工芸品や各産地の魅力を情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国及び県指定の伝統的工芸品の新商品開発や需要開拓等の事業に対する経費の一部を補助、展示会への出展を通して販路拡大等の支援を行った。</li> <li>伝統的工芸品製造事業者への補助金交付 8件</li> <li>伝統的工芸品に係るイベント等への参加 5件</li> </ul>	
次世代型商店街形成支援事業	商工金融課	2,420	商店街のニーズや商店街を取り巻く環境の変化に適合した、次世代を見据えた持続的で発展的な商店街の構築を図るため、商店街団体等が行う商店街ビジョン形成及びビジョンに基づく課題解決の取組を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1商店街に対してビジョン形成、ビジョンに基づく課題解決の支援を実施した。</li> <li>ビジョン形成支援 1件 1,420千円</li> <li>課題解決支援 1件 1,000千円</li> </ul>	
商店街NEXTリーダー創出事業	商工金融課	6,661	魅力ある商店街の形成を促進するため、先進事例等を学ぶセミナー、実践事業への補助及びネットワーク会議により、商店街活動の新たな担い手や中心人物の創出を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手・女性事業者の人材育成やトライアル活動等に対する支援を実施した。</li> <li>事業者向けセミナー 2コース 24名修了</li> <li>トライアル活動・魅力発信支援 10団体 3,000千円</li> <li>ネットワークミーティング 1回 49名参加</li> </ul>	
中小企業経営安定資金等貸付金	商工金融課	109,000	観光客の利便性の向上及び安全・安心の確保を図るため、中小企業者が観光施設の整備等を行う際に、“伊達な旅”整備促進資金等の県制度融資により、資金融通の円滑と観光産業の振興を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光施設の整備等を行う中小企業者に対し、“伊達な旅”整備促進資金等による融資を行い、資金の融通を図った。</li> <li>“伊達な旅”整備促進資金2件 金額105,000千円</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
県産食品海外ビジネスマッチングサポート事業	国際ビジネス推進室	12,903	農林水産物の輸出に取り組む事業者のスタートアップから海外ビジネス展開の段階に応じて細やかな個別支援を実施するとともに、輸出に当たって課題となる物流面などの課題解決に向けたバリューチェーンのモデル構築により更なる輸出拡大を図るもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県産品販路開拓コーディネーターによる企業の貿易実務の個別相談対応や商談支援等（117件）</li> <li>・宮城県食品輸出促進協議会と連携した輸出セミナーの開催（2回）</li> <li>・輸出商社や海外バイヤー、現地リテール等と連携した海外フェア・商談会の開催（12回）</li> <li>・事業者の輸出促進活動（海外商談会等）への補助金交付（9件：2,339千円）</li> <li>・課題解決型輸出拡大バリューチェーンモデル構築事業費補助金交付（1件：834千円）</li> </ul>	
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,261	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNSキャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>・仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。</p> <p>① 食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域をくまなく周遊するよう、参加39店舗を3つのエリアに分け、各エリアでおくずかけ、そば、ラーメン等指定メニュー1品を購入することで応募できる「押し麺キャンペーン」を、3県連携広域周遊促進事業と同時期（9月1日～12月17日）に実施した。応募総数185件、総シール数1,317枚</li> <li>・3県（山形、福島）連携マルシェ（11月3、4日）の実施（来場者数約9,000人）</li> <li>・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを年4回開催（5、6、10、2月）</li> <li>・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨4社6品目、推奨品目数81品目）とともに、リーフレットやシール、POPによる販売促進を実施した。</li> <li>・スイーツマルシェ、道の駅等で「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」販売促進</li> </ul> <p>② 広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、Instagramフォトキャンペーンを実施し、年度末フォロワー数がXで約1.4万人、Instagramで約1,100人に増加した。</li> <li>・「ひなの郷せんなん」として、リーフレットにより管内及び福島県のひな祭りイベントの紹介と周遊モデルコースを提案した。</li> </ul> <p>③ みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を4施設制作し、SNSで発信した。</li> </ul> <p>④ 「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙南アドベンチャーーツリズム推進事業	大河原地方振興事務所	930	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーーツリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信を実施した。</li> <li>2か所のキャンプ場を会場に、キャンプ初心者親子向けのモニターイベントを3回実施した。</li> <li>・1泊2日のキャンプ 川崎町 9月23日～24日 7組24人</li> <li>・日帰りのキャンプ場遊び 川崎町 10月14日 9組29人</li> <li>・日帰りのキャンプイベント 丸森町 10月15日 9組28人</li> </ul>	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,848	<p>“仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。</p> <p>(1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏)</p> <p>(2)独自企画 秋冬周遊企画</p> <p>(3)「みやぎ仙南サイクルーツリズム推進会議」との連携事業”</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。</li> <li>①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナンゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2023」(R5.7～9月)を実施。応募総数1,039通</li> <li>②押し麺キャンペーン(再掲)</li> <li>③大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルーツリズム推進会議」との連携事業</li> <li>・みやぎ蔵王三十六景サイクルスタンプラリーへの商品提供</li> <li>・R5.12.28 村田町での初心者体験ライドにおいて、参加者への補給食等の提供や観光PRを実施(参加者27名)</li> </ul>	○
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	1,997	仙台圏域が一体となった観光周遊戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット(40店舗)を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域うまいっちゃん！スタンプラリー」を実施した。合わせてお勧め観光スポット(20か所)をデジタルマップ上に掲載し、周遊促進を図った。</li> <li>参加者：2,682人</li> <li>②食と観光を連携させた取組として、上記スタンプスポット先の飲食店や周辺観光スポット等を情報雑誌「りらく」11月号へ掲載し、食と観光をテーマに地域の魅力発信・周遊促進を図った。</li> <li>発行部数：5万部</li> <li>③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート(じゃらんリサーチセンター)、仙台国際空港株式会社、JRより講師を招き、令和6年2月14日に研修会を開催した。</li> <li>参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等52名</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台地域体験型コンテンツ魅力発信事業	仙台地方振興事務所	648	管内の地域資源を活かした魅力的な体験型コンテンツをSNSを通じて県内外に広く発信するもの。	<p>・仙台・松島地域の特徴的な地域資源を生かした体験とその周辺のおすすめ観光スポットや飲食店等を、知名度が高いキャラクターを起用し、Instagramの共同投稿により情報発信を行った。</p> <p>また、Instagramの広告を活用し効果的に広報を行った。</p> <p>&lt;紹介スポット&gt; 松島エリア：4箇所、仙台・名取エリア：4箇所、亶理・山元エリア：4箇所</p> <p>&lt;Instagram投稿内容&gt; リール投稿：13本、フィード投稿：3本</p> <p>&lt;Instagram広告&gt; 2月29日～3月8日の期間でInstagramの広告を使い、当事業で作成した各スポットを紹介する県のCMSのページに誘導する仕掛けを行った。</p>	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会事業	仙台地方振興事務所	1,166	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会の事務局として、関係市町村等と連携・協働しながら、圏域観光の推進を図る。	<p>①管内市町村の特色PR事業として、10月7日、8日に仙台南の杜水族館において、観光誘客キャラバン及び管内事業者等による特産品販売会を実施した。</p> <p>参加市町村数 13市町村 特産品販売会出店者数 11市町村から14店舗</p> <p>②みやぎせんたい・松島エリア観光ガイドブックの時点修正及び増刷を行った。</p> <p>作成部数：25,000部 配布個所数：管内市町村、観光施設等約100か所</p> <p>③地場産業振興協議会事業との連携 宮城黒川地域地場産業振興協議会が開催した物産展に観光PRブースを設置しパンフレットの配布等を行った。</p> <p>名亶地場産業振興協議会が開催したJAFドライブスタンプラリー事業のPRと併せて仙台地方振興事務所のSNSアカウントフォローキャンペーンを実施した。</p>	○
地域食材魅力発信事業	北部地方振興事務所	111	大崎地域のイベントである「おおさき食楽まつり」において、来場者に対して地域食材の魅力を発信し消費拡大に繋げるもの。また、大崎地域の農産物直売所を取材し、FacebookやInstagram等で情報発信する。	<p>・10月に開催した「おおさき食楽まつり」において、来場者に対して地域食材の魅力を発信し消費拡大に繋げた。</p> <p>・大崎地域の農産物直売所等を取材し、FacebookやInstagramによる情報発信を12回行った。</p>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
体験型観光コンテンツ掘り起こし・磨き上げ事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	90	登米市内外の小学生を対象に、登米の魅力に触れることができるクラフトツーリズム体験及びグリーンツーリズム体験をテーマとした体験会を開催するとともに、登米地域内の農泊施設について、近隣地域と連携し、継続的にフォローアップ支援を行うことにより、体験型観光コンテンツの掘り起こし及び磨き上げを図る。	①登米の魅力体験会の開催 ・小学生の親子を対象に登米市の魅力を発見してもらうことを目的とした「小学生の親子対象 登米の魅力体験会」を開催した。 開催日・参加者数：グリーンツーリズム編 R5. 10. 29・10名、クラフトツーリズム編 R5. 11. 25・12名  ②登米の農泊等の運営フォローアップ支援 ・登米地域内の農泊施設について、各施設の課題や要望についてのアンケート調査や宿泊受入状況についてヒアリングを実施した。その結果をもとに、体験型コンテンツ造成やそれらを提供する上で実施すべきリスク管理をテーマとした研修会を企画。東部地方振興事務所農業振興部と連携し、ワークショップ形式で「農泊運営者向け体験コンテンツづくり研修会」を開催した。 開催日：R6. 2. 15	○
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城オルレフェア 2023」のコースイベント (10/9) 開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともに、イベント運営業務に従事した。	○
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	2,000	アウトドアコンテンツに取り組む当圏域の観光プレイヤーとの連携のもと、当該コンテンツへの誘客と、その魅力発信のため、地元 YouTuber による情報発信を行うとともに、アウトドアアクティビティを体験するイベントを開催する。	・管内の観光資源の魅力を発信するため、代表的なアクティビティであるトレッキングイベントに地元人気 YouTuber を招聘し、その体験動画を当該 YouTuber のチャンネルで配信した。 フォロワー：140万人 配信回数：1回 (視聴数：3万回) ・釣りやマリンスポーツなど海を中心としたアウトドアアクティビティのほか、多様な体験コンテンツに関する動画を地元人気 YouTuber のチャンネルで配信した。 フォロワー：10万人 配信回数：4回 (視聴数：気仙沼夏編 2.2万回、気仙沼冬編 2.6万回、南三陸夏編 1.6万回、南三陸冬編 1.9万回)	○
アウトドアコンテンツ等の外国語翻訳による情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・南三陸地域観光情報発信事業において作成したコンテンツを複数の言語に翻訳し、SNS や Web サイトで発信する。	・3月11日の「みやぎ鎮魂の日」に合わせて、気仙沼・南三陸の震災伝承施設の記事を英訳し、Visit Miyagi において情報発信を行った。	○
むらまち交流拡大推進事業	農山漁村なりわい課	3,495	農山漁村と都市の交流活動を推進するため、地域の受入体制づくりと交流活動に向けた広報や情報発信を行う。また、広域ネットワーク組織を設置し、地域間の連携を強化する。	・農泊地域のニーズに合わせたテーマ別研修会、交流会開催 ・農泊地域紹介動画作成 (2地域) ・農山漁村交流アドバイザー派遣の実施 (6回)	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
地域資源・キャリア人材フル活用事業	農山漁村なりわい課	6,124	農山漁村地域において、農泊等の受入体制づくりや都市と地域の交流に向けたコーディネーター人材の育成を支援する。	・みやぎの INAKA 応援し隊による地域活動実施 ・交流拡大に向けた受入体制構築・活動支援（5地域） ・都市人材・企業連携コーディネーター育成（2地域）	○
シン・令和のむらづくり推進事業（しごと・くらし体験）	農山漁村なりわい課	4,446	農山漁村地域に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大を図るため、県内外の社会人や学生を対象とした各種プログラムを通じ、「新たな地域滞在型交流」を促進する。	・地域滞在型交流プログラムの作成支援（2地域）	○
仙台港周辺地域における賑わい創出事業	公営事業課	— (非予算)	仙台港周辺地域に立地する企業を中心に設立された官民連携組織である「仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム」を推進母体として、仙台港周辺地域のポテンシャルを活かした観光資源の磨き上げを図る。	・ウォーキングを通じ、仙台港周辺地域の自然や、商業・工業地域などの景色を楽しみながら歩いてもらうことで地域の魅力を発見してもらうことを目的に「みなとオアシス仙台港ウォーク」を実施した。（154名の参加） ・なお、取組は仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム会員企業の年会費を事業費として実施している。	○
地域と連携した高等学校魅力化事業	高校教育課	7,344	地域等の諸課題の解決に取り組む等、生徒が学びたくなり、地域に根差した開かれた学校づくりを展開している高校を指定し、学校運営協議会や地域パートナーシップ会議等により地域資源を活用しながら、学びの意識や自己の役割に対する認識を深める教育プログラム等の工夫について支援する。 ※「魅力ある県立高校づくり支援事業」の後継事業。 ・令和5年度まで、観光関係の取組は松島高校を指定 ・令和6年度新規募集：2月下旬～3月 ・令和6年度指定校決定：4月下旬	・主に修学旅行等の観光ボランティアガイドとして、20団体から2,385人を受け入れて活動を行った。 ・松島町役場の観光課や観光協会と連携して、松島観光PRリーフレットの作成や観光商品としての「あかもくどら焼き」を開発するなど、充実した活動を行うことができた。 ・ボランティアガイド中に地震が発生した際に観光客を安全に誘導するための避難訓練を実施し、スキルアップを図ることができた。	
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	2,479	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	・紹介パネル展10回 ・小中学生向けイベント4回、参加34人 ・講演対応9件（参加者537名） ・公式SNSによる情報発信（フォロワー696人） ・文化財アクリルスタンドカプセルトイ1,400個（販売880個） ・ハンドブック製作500冊（販売161冊） ・文化財カード製作800枚（配布はR6から）	○
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	7,150	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	・歴史講座等を開催し、延べ214人の参加により多賀城跡の理解促進につながった。 ・令和4年度に制作した多賀城跡の高精度3D測量データ（多賀城跡VRマップ）と最新の復元研究を活用して、古代建物復元CG（城前官衙ほか）など、VRを活用してじっくり観察する「デジタルミュージアム」体験プログラムを開発した。	○

## (2) 地域を支える観光人材の育成・確保

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課 (観光政策課)	66,438	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(113件、延べ4,950名)</li> <li>・北海道、首都圏及び関西圏の学校関係者、教育旅行関係団体、旅行会社を対象としたセミナー等を開催した。</li> <li>・教育旅行関係団体や中学校・高校の教職員を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。</li> <li>・教育旅行バス助成事業として、269件、31,140,000円を交付した。</li> </ul>	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課 (観光政策課)	658	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計11回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。</li> </ul>	○
未来を担う観光人材プロジェクト	観光戦略課 (観光政策課)	5,702	観光産業を持続的に成長させていくため、通訳ガイドの育成を目的として、県内の学生や全国通訳案内士等を対象とした研修会や研修内容の実践・活躍機会創出の支援を実施するほか、宿泊施設における人材の育成・確保を目的として、県内の学生等を対象とした宿泊業の実習機会の創出や、就職定着を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の高校生、全国通訳案内士、ボランティアガイド等を対象に、基礎研修会及び実践力向上研修会を各1回開催した。</li> <li>・基礎研修会及び実践力向上研修会受講者を対象に、実践模擬ツアーを1回開催、先進地視察を1回開催した。</li> <li>・研修会受講者及び実践模擬ツアー受講者を対象に、県内観光関連事業者とのマッチング交流会を1回開催した。</li> <li>・松島湾地域の若手・中堅の観光事業者等を対象として、定例会6回、勉強会1回、先進地視察2回、フィールドワーク1回を開催した。</li> <li>・県内の高校(3校)が自主的に行う観光振興活動に対する支援を行った。</li> </ul>	○
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課 (観光政策課)	3,838	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵王町遠刈田地区等の3地区をモデル地域とし、意見交換会(2回)を開催したほか、遠刈田地区と鳴子温泉において、地域の担い手と連携しながら新たな賑わい創出に向けたイベントを開催した。</li> </ul>	○
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	996	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を超えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の連続講座を6コマ開催した。</li> <li>①②「インバウンド・観光概論」10/18開催 12人参加</li> <li>③④「観光トレンド・情報発信施策づくりワークショップ」11/7開催 21人参加</li> <li>⑤⑥「アルベルゴ・ディフーズまちづくり交流会」12/7開催 36人参加</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	1,997	仙台圏域が一体となった観光周遊戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	①管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット（40店舗）を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域うまいっちゃ！スタンプラリー」を実施した。合わせてお勧め観光スポット（20か所）をデジタルマップ上に掲載し、周遊促進を図った。 参加者：2,682人 ②食と観光を連携させた取組として、上記スタンプスポット先の飲食店や周辺観光スポット等を情報雑誌「りらく」11月号へ掲載し、食と観光をテーマに地域の魅力発信・周遊促進を図った。 発行部数：5万部 ③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）、仙台国際空港株式会社、JRより講師を招き、令和6年2月14日に研修会を開催した。 参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等52名	○
インバウンド受入態勢強化事業	東部地方振興事務所	602	飲食店や宿泊施設等の外国人観光客とのコミュニケーション能力向上に向けた支援を行うことにより、石巻地域におけるインバウンド受入態勢を強化する。また、世界に向け石巻地域の復興状況や魅力を発信し、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンドを促進する。	・行政や飲食店、宿泊施設等の観光関係者を対象に、インバウンド研修を実施した。 研修会 1回、11人 ・地域のガイド又はガイド希望者を対象に外国人観光客案内ガイド向け研修を開催した。 研修会 1回、9名 ・公式Facebook（英語・中国語版）による情報発信を実施した。 英語版 49回、中国語版 51回	○
地元定着意識醸成事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	567	登米市内の中高校生等を対象に、登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史に触れる機会を作るほか、登米地域の魅力を発信できる人材を育成することで、若者の地元定着意識の醸成を図る。	・「みやぎの明治村歴史探訪」の開催（R5.10月、R5年11月、R5年12月） 登米市内の中高校生等を対象に観光ガイドから登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史について学ぶことができるイベントを開催した。（計3回開催、参加者14名）	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
体験型観光コンテンツ掘り起こし・磨き上げ事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	90	登米市内外の小学生を対象に、登米の魅力に触れることができるクラフトツーリズム体験及びグリーンツーリズム体験をテーマとした体験会を開催するとともに、登米地域内の農泊施設について、近隣地域と連携し、継続的にフォローアップ支援を行うことにより、体験型観光コンテンツの掘り起こし及び磨き上げを図る。	<p>①登米の魅力体験会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学生の親子を対象に登米市の魅力を発見してもらうことを目的とした「小学生の親子対象 登米の魅力体験会」を開催した。</li> <li>開催日・参加者数：グリーンツーリズム編 R5. 10. 29・10名、クラフトツーリズム編 R5. 11. 25・12名</li> </ul> <p>②登米の農泊等の運営フォローアップ支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登米地域内の農泊施設について、各施設の課題や要望についてのアンケート調査や宿泊受入状況についてヒアリングを実施した。その結果をもとに、体験型コンテンツ造成やそれらを提供する上で実施するべきリスク管理をテーマとした研修会を企画。東部地方振興事務所農業振興部と連携し、ワークショップ形式で「農泊運営者向け体験コンテンツづくり研修会」を開催した。</li> <li>開催日：R6. 2. 15</li> </ul>	○
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	2,479	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介パネル展 10回</li> <li>小中学生向けイベント4回、参加34人</li> <li>講演対応9件（参加者537名）</li> <li>公式SNSによる情報発信（フォロワー696人）</li> <li>文化財アクリルスタンドカプセルトイ1,400個（販売880個）</li> <li>ハンドブック製作500冊（販売161冊）</li> <li>文化財カード製作800枚（配布はR6から）</li> </ul>	○
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	7,150	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史講座等を開催し、延べ214人の参加により多賀城跡の理解促進につながった。</li> <li>令和4年度に制作した多賀城跡の高精度3D測量データ（多賀城跡VRマップ）と最新の復元研究を活用して、古代建物復元CG（城前官衙ほか）など、VRを活用してじっくり観察する「デジタルミュージアム」体験プログラムを開発した。</li> </ul>	○

成長戦略2 合計 43事業 726,336千円

### 成長戦略3 受入環境の整備促進

国内外からの誘客を図るため、クルーズ船の県内寄港に向けた取組を推進したほか、MICEの開催に対する支援を行った。また、無料公衆無線LAN整備や案内表示等の多言語化への支援を通して、観光客の利便性向上に努めると共に、観光客の安全な利用に配慮した自然公園施設の整備に取り組んだ。

#### (1) 旅行者の安全・安心確保

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光戦略課 (観光政策課)	221,843	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	・荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備(蔵王、気仙沼大島等)などを行ったほか、広域観光案内板の盤面更新(仙台駅西口等)を行った。	○
みやぎエコ推進バス運行補助事業	観光戦略課 (観光政策課)	447	観光地の保全を図りながら、エコに関する県民意識の向上を促すため、エコの視点を取り入れ、観光地における循環バス・シャトルバスの運行事業などに係る経費の補助を行う。	・観光地と駐車場等を結ぶシャトルバスの運行経費を助成した。(交付決定件数3件)	
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課 (観光政策課)	658	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計11回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。	○
多文化共生推進事業	国際政策課	6,917	多文化共生の基本理念の普及・浸透を目指し、「宮城県多文化共生社会推進計画」に基づき、今後一層の増加が見込まれる外国人に対し、地域において更なる受入環境整備を図ることを目的とした事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎ外国人相談センターの設置運営(相談件数295件)</li> <li>・災害時通訳ボランティアの整備(登録者数122人、20言語)</li> <li>・多文化共生シンポジウムの開催(1回、参加者107人)</li> <li>・防災ハンドブック周知クリアファイル作成配布(市町村、国際化協会、日本語学校等の関係機関に配布14,700部)</li> <li>・令和6年3月に策定された第4期多文化共生社会推進計画リーフレットを作成し、関係機関に配布した。(市町村、教育委員会、学校等の関係機関に配布(3,000部))</li> <li>・多文化共生社会推進審議会の開催(4回)</li> <li>・技能実習生等との交流会の開催(1回、参加者15人)</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
体験型観光コンテンツ掘り起こし・磨き上げ事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	90	登米市内外の小学生を対象に、登米の魅力に触れることができるクラフトツーリズム体験及びグリーンツーリズム体験をテーマとした体験会を開催するとともに、登米地域内の農泊施設について、近隣地域と連携し、継続的にフォローアップ支援を行うことにより、体験型観光コンテンツの掘り起こし及び磨き上げを図る。	①登米の魅力体験会の開催 ・小学生の親子を対象に登米市の魅力を発見してもらうことを目的とした「小学生の親子対象 登米の魅力体験会」を開催した。 開催日・参加者数：グリーンツーリズム編 R5.10.29・10名、クラフトツーリズム編 R5.11.25・12名 ②登米の農泊等の運営フォローアップ支援 ・登米地域内の農泊施設について、各施設の課題や要望についてのアンケート調査や宿泊受入状況についてヒアリングを実施した。その結果をもとに、体験型コンテンツ造成やそれらを提供する上で実施すべきリスク管理をテーマとした研修会を企画。東部地方振興事務所農業振興部と連携し、ワークショップ形式で「農泊運営者向け体験コンテンツづくり研修会」を開催した。 開催日：R6.2.15	○
アウトドアコンテンツ等の外国語翻訳による情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・南三陸地域観光情報発信事業において作成したコンテンツを複数の言語に翻訳し、SNSやWebサイトで発信する。	・3月11日の「みやぎ鎮魂の日」に合わせて、気仙沼・南三陸の震災伝承施設の記事を英訳し、Visit Miyagiにおいて情報発信を行った。	○
無料公衆無線LAN整備事業	デジタルみやぎ推進課	7,721	ICTを利活用し、国内外からの集客力を強化するため、本県独自のSSIDによる無料公衆無線LAN「みやぎFreeWi-Fi」を県有施設に整備し、その重要性を県内に周知しながら、県内民間事業者や他自治体等、本県全域への導入拡大を図る。	・県有施設におけるみやぎFreeWi-Fiの整備に加え、県内全市町村に、1,023箇所1,485のアクセスポイント(AP)を設置した。 公共施設：141箇所283AP 宿泊施設等：72箇所148AP その他飲食店等：810箇所1,054AP	
クルーズ船受入促進事業	港湾課	96	国内外からの誘客を図るため、仙台塩釜港へのクルーズ船の誘致活動を行うとともに、寄港時の受入対応(おもてなし)を行う。	・外国クルーズ船の受入が再開したこともあり、過去2番目となる延べ12隻(仙台港区7隻/石巻港区5隻)のクルーズ船が寄港し、受入対応を行った。 また、石巻港大型客船誘致協議会と連携し、クルーズ船社やオプションツアーを造成する旅行会社など5社に対し、共同ポートセールスを実施し、クルーズ船の県内寄港に向けた取り組みを推進した。	○

## (2) 多様化する旅行者の受入環境整備

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
宮城県グリーン製品を活用した公園施設整備事業	観光戦略課 (観光政策課)	12,812	東北自然歩道「新・奥の細道」の案内看板等が老朽化したため、撤去を行うとともに引き続き必要な個所には新しい案内看板を設置する。	・栗原市などの東北自然歩道における指導標識等の整備を行った。	○
外国人観光客受入環境整備促進事業	観光戦略課 (観光政策課)	8,221	外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設が行う公衆無線 LAN 機器設置や案内表示等の多言語化整備に対して支援を実施する。	・外国人観光客の利便性を図るため、県内の宿泊施設、観光集客施設等における公衆無線 LAN の整備、外国語表記の整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数 10 件)	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光戦略課 (観光政策課)	221,843	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	・荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備(蔵王、気仙沼大島等)などを行ったほか、広域観光案内板の盤面更新(仙台駅西口等)を行った。	○
みやぎエコ推進バス運行補助事業	観光戦略課 (観光政策課)	447	観光地の保全を図りながら、エコに関する県民意識の向上を促すため、エコの視点を取り入れ、観光地における循環バス・シャトルバスの運行事業などに係る経費の補助を行う。	・観光地と駐車場等を結ぶシャトルバスの運行経費を助成した。(交付決定件数 3 件)	○
MICE (国際会議等)の誘致推進事業	観光戦略課 (観光政策課)	2,167	多くの外国人を一時に招致できる MICE (国際会議等)の誘致を積極的に実施し、高い経済波及効果を生み出すため、専門のスタッフを抱え誘致事業に精通した団体への補助を行う。	・コンベンション開催経費の一部を支援し、開催誘致を促進した。(国内会議: 23 件、国際会議: 15 件 合計 38 件)	
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課 (観光政策課)	658	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・県内 7 圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計 11 回開催。観光関係者の意見を集約の上、第 5 期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。	○
観光地周遊促進事業	観光戦略課 (観光政策課)	38,022	観光地までの渋滞状況や、飲食店等の観光施設における混雑状況について、AI カメラ等を活用し、可視化するとともに、観光用のデジタルマップにより、観光施設情報と一体的に情報発信する。	・栗駒山、鳴子峡、松島の 3 地区において、紅葉時期等の観光シーズンに合わせ、駐車場や観光施設にセンサーや AI カメラを設置して混雑状況を把握し、デジタルマップ「ミヤギタビマップ」による情報発信を行った。 デジタルマップ閲覧数: 計 52,206 回	
宮城ワーケーション情報環境整備推進事業	観光戦略課 (観光政策課)	1,455	宮城におけるワーケーションの一層の普及促進を図るため、県内のワーケーション施設等の情報を一元化したポータルサイトを構築し、効果的な情報発信を行う。	・令和 4 年度に開設した WEB サイト「Miwork 宮城」において、ワークスペース、宿泊施設及び観光施設等のワーケーション情報を一元化して発信することで、宮城のワーケーションの普及促進及び利用者の利便性向上に努めた。 掲載施設数: 128 件 総ページビュー数: 49,345 ビュー	○
小規模宿泊施設普及拡大事業	観光戦略課 (観光政策課)	12,000	外国人観光客をはじめとする多様な宿泊ニーズに対応するため、小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象にしたセミナーの開催や、小規模宿泊施設等の施設整備等に係る経費を支援する。	・県内の小規模宿泊施設の新規開業者に対し、施設整備に係る経費の一部を補助した。(交付決定件数 5 件) ・県内の小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象としたセミナーを 2 回開催した。	○

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課(観光政策課)	3,838	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	・蔵王町遠刈田地区等の3地区をモデル地域とし、意見交換会(2回)を開催したほか、遠刈田地区と鳴子温泉において、地域の担い手と連携しながら新たな賑わい創出に向けたイベントを開催した。	○
観光のデジタル化促進事業	北部地方振興事務所	25	大崎地域の観光関係団体及び事業者等を対象に、SNS活用による情報発信など、受入側のデジタル化を促進するための研修を開催する。	・圏域内の観光関連事業者等を対象に、施設情報の発信等に効果的なGoogleマイビジネスやSNSなどのビジネスへの活用方法を学ぶセミナーを開催し、集客の強化につなげる発信手法について周知を図った。	
インバウンド受入態勢強化事業	東部地方振興事務所	602	飲食店や宿泊施設等の外国人観光客とのコミュニケーション能力向上に向けた支援を行うことにより、石巻地域におけるインバウンド受入態勢を強化する。また、世界に向け石巻地域の復興状況や魅力を発信し、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンドを促進する。	・行政や飲食店、宿泊施設等の観光関係者を対象に、インバウンド研修を実施した。 研修会 1回、11人 ・地域のガイド又はガイド希望者を対象に外国人観光客案内ガイド向け研修を開催した。 研修会 1回、16名 ・公式Facebook(英語・中国語版)による情報発信を実施した。 英語版 65回、中国語版 64回	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
誘客促進事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	746	公式 SNS「ほっとめーしょん」の Instagram アカウントにおいて、登米市の魅力あるコンテンツを紹介してもらうフォトコンテストを実施するとともに、フォトコンテストの投稿写真を活用した、仙台駅構内のデジタルサイネージでの広告掲載、登米地域内の観光スポット及び飲食店等の情報を集約したデジタルマップの作成を行い、情報発信の強化を図る。	<p>①SNSを活用したフォトコンテストの実施 当所の公式 SNS「ほっとめーしょん」の Instagram アカウントにおいて、登米市の魅力あるコンテンツを紹介してもらうフォトコンテスト（投稿数 726 件）を開催した。 （開催期間：R5. 4. 10～R6. 1. 10） 上記期間中に、WEB 広告を掲載（掲載期間：R5. 8. 10～9. 30）することでフォトコンテストへの参加を促した。</p> <p>②SNS、デジタルマップ等を活用した登米圏域の PR 当所の公式 SNS「ほっとめーしょん」を活用し、登米圏域の PR を実施するとともに、事務所及び登米市で実施するイベントの周知を行う等、情報発信を行った。（投稿件数：92 件） Google マイマップ機能に関する情報収集やスタートアップまでの手順の整理を行い、デジタル版「登米エリアドライブマップ」の作成準備試行版を作成した。</p> <p>③仙台・宮城観光キャンペーン及び岩手・宮城県際地域との連携による誘客促進 県北地域部会の公式 Instagram「よしきたみやぎ」において、県北地域の魅力発信を行った。 「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」に参画し、今年度の研究会事業である県際マルシェを開催、地場製品の展示・販売補助及び観光 PR 等を行った。 （開催期間：R5. 11. 18～11. 19）</p>	○
アウトドアコンテンツ等の外国語翻訳による情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・南三陸地域観光情報発信事業において作成したコンテンツを複数の言語に翻訳し、SNS や Web サイトで発信する。	・3月11日の「みやぎ鎮魂の日」に合わせて、気仙沼・南三陸の震災伝承施設の記事を英訳し、Visit Miyagi において情報発信を行った。	○
無料公衆無線 LAN 整備事業	デジタルみやぎ推進課	7,721	ICT を利活用し、国内外からの集客力を強化するため、本県独自の SSID による無料公衆無線 LAN「みやぎ FreeWi-Fi」を県有施設に整備し、その重要性を県内に周知しながら、県内民間事業者や他自治体等、本県全域への導入拡大を図る。	<p>・県有施設におけるみやぎ FreeWi-Fi の整備に加え、県内全市町村に、1,023 箇所 1,485 のアクセスポイント（AP）を設置した。</p> <p>公共施設 : 141 箇所 283AP 宿泊施設等 : 72 箇所 148AP その他飲食店等 : 810 箇所 1,054AP</p>	○
サテライトオフィス設置推進事業	地域振興課	6,363	宮城県内にサテライトオフィスを設置した宮城県外に所在する企業・大学に対し、オフィスの賃料や家賃補助を行う。	<p>・テレワークの実施場所を新たに宮城県内に設ける企業等に対して、補助金を交付した。</p> <p>設置推進補助（民間事業者向け賃料補助） 12 社 6,362,300 円</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
クルーズ船受入促進事業	港湾課	96	国内外からの誘客を図るため、仙台塩釜港へのクルーズ船の誘致活動を行うとともに、寄港時の受入対応（おもてなし）を行う。	・外国クルーズ船の受入が再開したこともあり、過去2番目となる延べ12隻（仙台港区7隻／石巻港区5隻）のクルーズ船が寄港し、受入対応を行った。 また、石巻港大型客船誘致協議会と連携し、クルーズ船社やオプションツアーを造成する旅行会社など5社に対し、共同ポートセールスを実施し、クルーズ船の県内寄港に向けた取り組みを推進した。	○
仙台空港交通アクセス充実支援事業	空港臨空地域課	3,107	仙台空港に発着するバス路線については、新型コロナウイルスの影響により、観光地等への直行便は全て運休していることから、空港へのアクセス強化を行い、仙台空港の更なる利用促進を図るため、仙台空港発着のバス路線を再開・新規・増便運行し、3ヶ月継続して運行したバス事業者に対し運行経費の2分の1を補助する。	・1社1路線の増便の運行経費に対する補助を行った。 ・山形県でも同様の事業を実施したことから、本県実施分に加えて、2社2路線が再開された。	
「観光力強化」のための交通安全施設整備事業	交通規制課	155,588	外国人旅行者や障害のある方などをはじめとした全ての旅行者が、安全安心かつアクセスしやすい交通環境を整備するため、マイカーやバスのアクセス性向上につながる交通管制システムの拡充及び英語を併記する交通規制標識の整備、また、バリアフリー型交通安全施設等の更なる整備や充実を図る。	・交通管制センターの高度化、集中制御エリアの拡充、情報収集装置の整備等を実施したほか、歩行空間のバリアフリー化を図った。	

成長戦略3 合計 27事業 713,483千円

成長戦略 4 戦略的な誘客プロモーション

デジタルマーケティングを活用し、旅行者のニーズの変化を的確に把握すると共に、安心・安全な観光地としての認知度向上に向けた情報発信に取り組んだ。また、長期滞在による観光消費の拡大を目指し、東北各県や東北観光推進機構等と連携した広域周遊観光の促進により、東北各県への誘客を強化した。

(1) 旅行者のニーズやターゲットに応じた戦略的プロモーション

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
観光誘客推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	72,028	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みやぎ応援ポケモン」ラブラスを活用した事業のほか、コンテンツツーリズム促進のためのマップ作製、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。</li> <li>「ラブラス+海巡り」 エントリーユーザー数 1,308 人</li> <li>「阿武急 ラブラス&amp;ラッキートレインで GO! アブQからの挑戦状」 参加者数 892 人</li> <li>「仙台・宮城アニメ・漫画ゆかりの地探訪 MAP」(せんだい・宮城フィルムコミッションと共同製作) 発行部数 30,000 部</li> <li>宮城県公式 SNS 運営 Instagram 投稿数 233 (フォロワー数約 7400 人増)</li> </ul>	○
仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	12,307	仙台・宮城観光 PR キャラクター「むすび丸」を活用した本県観光の PR 活動を実施し、県内への誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発地側でのイベント等における本県の観光キャンペーンの告知及び本県観光情報の PR 活動、着地側でのツアー観光客のお出迎え、県内の観光素材発掘、動画撮影、SNS を利用したむすび丸による PR 動画の配信等を実施した。</li> <li>むすび丸による観光 PR、おもてなし 129 回</li> <li>メディア出演等 15 本</li> </ul>	○
みやぎ観光デジタルプロモーション事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	69,419	インバウンド回復のため、デジタルを活用し、旅行者の需要に合わせたプロモーションを実施するとともに、その結果を踏まえたインバウンド施策展開に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド向け観光デジタルプロモーション事業</li> <li>&lt;VISIT MIYAGI への誘客&gt;</li> <li>「VISIT MIYAGI」改修</li> <li>WEB 広告 約 920 万回表示</li> <li>新規 PR 記事 15 記事×4 か国語を制作</li> <li>&lt;首都圏来訪インバウンド向け誘客&gt;</li> <li>WEB 広告 約 240 万回表示</li> <li>交通広告 2 箇所 4 週間掲載</li> <li>&lt;仙台空港国際線利用促進プロモーション&gt;</li> <li>WEB 広告 約 240 万回表示</li> </ul>	○

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
外国人観光客誘致促進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	56,206	外国人観光客の誘客回復のため、トップセールスや旅行博出展等を実施するほか、台湾、中国のサポートデスクを活用し、セールスコールや招請事業等を一体的に行う。併せて、SNSによる情報発信を各市場に対し一元的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客誘客事業 仙台市との共同で大台南国際旅行博(R5.11.17~11.20)に出展し、入場者数はコロナ前を上回り15万人となった。</li> <li>現地誘客促進事業 台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、ウィズコロナ、アフターコロナにおける速やかな誘客の回復及び更なる誘客促進を図った。</li> <li>誘客促進情報発信事業 本県が管理する海外向け公式SNSを一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は494本。合計フォロワー数は約29万人となった。</li> <li>台湾現地旅行会社等招請事業 台湾の教育機関や旅行会社及び欧米の外国人を対象とした招請を行った。(招請者数43名) このうち、台湾全域の学校の教育旅行実施に強力な影響力を有する高級中等以下学校国際教育交流連盟の関係者については、同連盟11エリアのうち4エリアの処長を含む約20名を招請し、同連盟との間で教育旅行促進に係る覚書を締結することで合意した。</li> </ul>	○
宮城オルレ推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	73,011	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内観光に向けには「宮城オルレフェア2023(R5.8.21~11.30)」を開催し、400人以上が参加した(平成30年10月の宮城オルレオープン以降の延べ利用者数:約6.2万人)。</li> <li>11月11日に村田コースオープニングイベントを開催し、海外からのトレッキング関係団体及びメディア招請者を含め、約900人が参加した。</li> <li>九州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、パンフレット配布・物販を実施した。</li> <li>海外観光向けには、済州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、パンフレット等を配布した。</li> </ul>	○
宿泊・観光需要創出事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	3,271,913	新型コロナウイルス感染症の影響により打撃を受けた、宿泊・観光事業者への経営支援につなげるほか、落ち込んだ観光・宿泊需要の早期回復を図るため、宿泊割引等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国旅行支援 &lt;実施期間&gt; R5.1.10~R5.7.21 R5.8.28~R5.9.29 &lt;実施内容&gt; 割引率:20%、割引上限額:交通付商品5,000円/交通付商品以外3,000円 クーポン上限額:平日2,000円/休日1,000円※電子クーポン &lt;実績(R5年度実施分のみ)&gt; 37万人泊</li> </ul>	○

事業名	担当課 (R5担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	・国内観光向けには、SNSの投稿キャンペーンやサービスエリアでの合同ブース出展等を行った。 海外観光向けには、旅行会社2社を招請し、両県のトレッキングコース等を巡るツアーが2本造成された。	○
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	2,199	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北3県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	・タイから東北への国際定期路線再開に向けたプロモーション事業 ＜タイのインフルエンサー招請事業＞ 媒体接触者数 約130万人 ＜タイ旅行博出展事業＞ ブース来場者数 18,702人 ＜タイ旅行会社招請事業＞ 造成ツアー17本 造成ツアー送客数241人	○
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	観光戦略課 (観光政策課・観光プロモーション推進室)	18,500	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北が一体となった観光プロモーションの展開などの取組を行う。	・東北観光推進機構において、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ東北・新潟域内の観光需要の早期回復を目的に、関係団体と連携したプロモーション等を実施した。 東北の新しい旅行スタイル創出プロジェクト「Base!TOHOKU」の実施 台湾で東北PRイベント「日本東北遊楽日」を実施	○
海外交流基盤再構築事業	国際政策課	603	震災により大幅に減少した外国人観光客等の誘致を図るため、訪問団等を積極的に受け入れる。	・海外からの賓客等の受入30件	
海外交流基盤強化事業	国際政策課	7,010	中国吉林省、米国デラウェア州等海外自治体等との関係を強化するため、訪問団の派遣や受入れを行い、本県のPR等を効果的に実施する。	・中国については、令和5年8月に吉林省で開催された北東アジア博覧会に合わせて訪問団の派遣を行い、ブース出展を行った。また、令和5年5月及び令和6年3月に吉林省訪問団の受入を実施し、県内施設の視察や畜産関連の意見交換等を実施した。 ・台湾については、令和5年10月に知事を団長とする訪問団を派遣し、公的機関や企業を訪問し視察や意見交換を実施したほか、令和6年2月から3月に台北市で開催されたランタンフェスティバルに出展した。 ・韓国については、総領事館との共催で「キムチフェスティバル」を開催し、5年ぶりに試食会を再開したほか、「韓国のフェュージョン国楽の夕べ」を4年ぶりに開催するなど、韓国の食文化や伝統音楽を通じて交流の促進を図った。 ・米国デラウェア州については、令和5年9月に州政府訪問団が来県し行政交流(中小企業支援、観光、環境)及び高校進路指導教諭等への大学説明会を実施した。令和6年1月、県訪問団を州政府に派遣し、州政府との行政交流及び実務者協議等を実施するとともに、高校進路教諭等によるデラウェア大学視察を行った。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,261	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1)食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2)広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3)みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4)みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>・仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。</p> <p>①食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域をくまなく周遊するよう、参加39店舗を3つのエリアに分け、各エリアでおくずかけ、そば、ラーメン等指定メニュー1品を購入することで応募できる「押し麺キャンペーン」を、3県連携広域周遊促進事業と同時期（9月1日～12月17日）に実施した。応募総数185件、総シール数1,317枚</li> <li>・3県（山形、福島）連携マルシェ（11月3、4日）の実施（来場者数約9,000人）</li> <li>・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを年4回開催（5、6、10、2月）</li> <li>・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨4社6品目、推奨品目数81品目）とともに、リーフレットやシール、POPによる販売促進を実施した。</li> <li>・スイーツマルシェ、道の駅等で「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」販売促進</li> </ul> <p>②広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、Instagramフォトキャンペーンを実施し、年度末フォロワー数がXで約1.4万人、Instagramで約1,100人に増加した。</li> <li>・「ひなの郷せんなん」として、リーフレットにより管内及び福島県のひな祭りイベントの紹介と周遊モデルコースを提案した。</li> </ul> <p>③みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を4施設制作し、SNSで発信した。</li> </ul> <p>④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙南アドベンチャーツーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	930	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーツーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信を実施した。</li> <li>2か所のキャンプ場を会場に、キャンプ初心者親子向けのモニターイベントを3回実施した。</li> <li>・1泊2日のキャンプ 川崎町 9月23日～24日 7組24人</li> <li>・日帰りのキャンプ場遊び 川崎町 10月14日 9組29人</li> <li>・日帰りのキャンプイベント 丸森町 10月15日 9組28人</li> </ul>	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,848	<p>仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙南地域部会の取組として、以下の事業を行う。</p> <p>(1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏)</p> <p>(2)独自企画 秋冬周遊企画</p> <p>(3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業”</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。</li> <li>①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2023」(R5.7～9月)を実施。応募総数1,039通</li> <li>②推し麺キャンペーン(再掲)</li> <li>③大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業</li> <li>・みやぎ蔵王三十六景サイクルスタンプラリーへの商品提供</li> <li>・R5.12.28 村田町での初心者体験ライドにおいて、参加者への補給食等の提供や観光PRを実施(参加者27名)</li> </ul>	○
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	令和3年度に開設した公式X(旧Twitter)、令和4年度に開設した公式Instagramをはじめ、ブログやFacebook等のSNSを最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管内の魅力ある観光や食をタイムリーに発信するため、ウェブサイトやSNSにより情報発信を実施した。</li> <li>令和5年度はX(旧Twitter)約930件、Instagramは560件、事務所ウェブサイト約50件、ブログは47件の記事を投稿した。</li> </ul>	○
3県(宮城・山形・福島)連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	近年、東北中央道の開通等により、南東北3県(宮城仙南・山形置賜・福島県北)の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力が多くの方に知ってもらい、3県の相互交流を促進するため、各地域の特産であるフルーツや食材を使用したスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3県の計30店舗を周遊して、各地域の特産であるフルーツを使用したスイーツを4品以上購入することで応募可能となる「至福のフルーツスイーツビンゴラリー」を9月1日から12月17日まで開催した。</li> <li>応募総数110件 総シール枚数1,296枚(参加者1人当たりのシール枚数11.8枚)の応募があった。</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	996	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	<p>・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を超えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の連続講座を6コマ開催した。</p> <p>①②「インバウンド・観光概論」10/18開催 12人参加</p> <p>③④「観光トレンド・情報発信施策づくりワークショップ」 11/7開催 21人参加</p> <p>⑤⑥「アルベルゴ・ディフーズまちづくり交流会」 12/7開催 36人参加</p>	○
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	1,997	仙台圏域が一体となった観光周遊施戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	<p>①管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット(40店舗)を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域うまいっちゃ!スタンプラリー」を実施した。合わせてお勧め観光スポット(20か所)をデジタルマップ上に掲載し、周遊促進を図った。 参加者:2,682人</p> <p>②食と観光を連携させた取組として、上記スタンプスポット先の飲食店や周辺観光スポット等を情報雑誌「りらく」11月号へ掲載し、食と観光をテーマに地域の魅力発信・周遊促進を図った。 発行部数:5万部</p> <p>③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート(じゃらんリサーチセンター)、仙台国際空港株式会社、JRより講師を招き、令和6年2月14日に研修会を開催した。 参加者:市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等52名</p>	○
仙台地域体験型コンテンツ魅力発信事業	仙台地方振興事務所	648	管内の地域資源を活かした魅力的な体験型コンテンツをSNSを通じて県内外に広く発信するもの。	<p>・仙台・松島地域の特徴的な地域資源を生かした体験とその周辺のおすすめ観光スポットや飲食店等を、知名度が高いキャラクターを起用し、Instagramの共同投稿により情報発信を行った。 また、Instagramの広告を活用し効果的に広報を行った。</p> <p>&lt;紹介スポット&gt; 松島エリア:4箇所、仙台・名取エリア:4箇所、亘理・山元エリア:4箇所</p> <p>&lt;Instagram投稿内容&gt; リール投稿:13本、フィード投稿:3本</p> <p>&lt;Instagram広告&gt; 2月29日～3月8日の期間でInstagramの広告を使い、当事業で作成した各スポットを紹介する県のCMSのページに誘導する仕掛けを行った。</p>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会事業	仙台地方振興事務所	1,166	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会の事務局として、関係市町村等と連携・協働しながら、圏域観光の推進を図る。	①管内市町村の特色PR事業として、10月7日、8日に仙台南の杜水族館において、観光誘客キャラバン及び管内事業者等による特産品販売会を実施した。 参加市町村数 13市町村 特産品販売会出店者数 11市町から14店舗 ②みやぎせんだい・松島エリア観光ガイドブックの時点修正及び増刷を行った。 作成部数：25,000部 配布箇所数：管内市町村、観光施設等約100か所 ③地場産業振興協議会事業との連携 宮城黒川地域地場産業振興協議会が開催した物産展に観光PRブースを設置しパンフレットの配布等を行った。 名互地場産業振興協議会が開催したJAFドライブスタンプラリー事業のPRと併せて仙台地方振興事務所のSNSアカウントフォローキャンペーンを実施した。	○
SNSによる観光情報発信事業	北部地方振興事務所	— (非予算)	国内・海外からの誘客促進を図るため大崎地域等の観光地の魅力をSNS (Youtube、Facebook、Instagram) を活用し情報発信する。	・Instagram「東北のへそ」及び「よしたみやぎ」、Facebook「アイラブオオサキ」を活用し情報発信を行った。	
バーチャルトリップサイトによる観光情報発信事業	北部地方振興事務所	— (非予算)	海外からの誘客促進を図るため、大崎管内の観光地を360°映像等で紹介するバーチャルトリップサイト「アイラブオオサキ」で国内外に発信する。	・バーチャルトリップサイト「アイラブオオサキ」を4カ国語(英語・中国語(繁体字)・中国語(簡体字)・韓国語)で大崎地域の魅力を発信した。	
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会による情報発信事業	東部地方振興事務所・気仙沼地方振興事務所	1,254	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会の事務局として、関係市町や観光関係団体等と連携しながら観光資源の広報宣伝等を実施し、石巻・気仙沼地域への交流人口の拡大を図るとともに、観光を活かした地域振興を推進する。	・S-style(観光雑誌12月号及びWEBページ)に、三陸エリア情報を掲載し、PRした。 発行部数 5万部 ・三陸地域の周遊促進を目的として「みやぎ三陸エリアドライブマップ」を作成・配布した。 発行部数 3万部 ・地域の観光資源を県内旅行業者に直接訴求し、魅力的な旅行商品の造成に繋げるための商談会に参加し、三陸地域の観光PRを実施した。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
誘客促進事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	746	公式 SNS「ほっとめーしょん」の Instagram アカウントにおいて、登米市の魅力あるコンテンツを紹介してもらうフォトコンテストを実施するとともに、フォトコンテストの投稿写真を活用した、仙台駅構内のデジタルサイネージでの広告掲載、登米地域内の観光スポット及び飲食店等の情報を集約したデジタルマップの作成を行い、情報発信の強化を図る。	<p>①SNS を活用したフォトコンテストの実施 当所の公式 SNS「ほっとめーしょん」の Instagram アカウントにおいて、登米市の魅力あるコンテンツを紹介してもらうフォトコンテスト（投稿数 726 件）を開催した。 （開催期間：R5. 4. 10～R6. 1. 10） 上記期間中に、WEB 広告を掲載（掲載期間：R5. 8. 10～9. 30）することでフォトコンテストへの参加を促した。</p> <p>②SNS、デジタルマップ等を活用した登米圏域の PR 当所の公式 SNS「ほっとめーしょん」を活用し、登米圏域の PR を実施するとともに、事務所及び登米市で実施するイベントの周知を行う等、情報発信を行った。（投稿件数：92 件） Google マイマップ機能に関する情報収集やスタートアップまでの手順の整理を行い、デジタル版「登米エリアドライブマップ」の作成準備試行版を作成した。</p> <p>③仙台・宮城観光キャンペーン及び岩手・宮城県際地域との連携による誘客促進 県北地域部会の公式 Instagram「よしきたみやぎ」において、県北地域の魅力発信を行った。 「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」に参画し、今年度の研究会事業である県際マルシェを開催、地場製品の展示・販売補助及び観光 PR 等を行った。 （開催期間：R5. 11. 18～11. 19）</p>	○
気仙沼地方振興事務所公式 Instagram による情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	32	公式 Instagram を開設し、圏域の観光資源の魅力を効果的に情報発信する。	<p>・圏域内観光資源の効果的な情報発信のため、公式 Instagram を運営した。 投稿数 166 件（総数 625） フォロワー増加数 422（総数 2,256）</p>	○
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	<p>・「宮城オルレフェア 2023」のコースイベント（10/9）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともに、イベント運営業務に従事した。</p>	○
デジタルスタンプラリー事業	気仙沼地方振興事務所	610	観光客の滞留性・周遊性の向上を図るため、岩手県大船渡地域振興センターと連携し当圏域（気仙沼市、南三陸町）及び大船渡圏域の観光施設等に設置するポイントをめぐるデジタルスタンプラリー事業を実施する。	<p>・三陸沿岸道路の観光スポット等に設置したラリーポイントをめぐるデジタルスタンプラリーを実施し、獲得したポイント数に応じて当圏域及び釜石市、大船渡市、陸前高田市などの地域の産品を賞品として贈呈した。 実施期間：令和 5 年 9 月 15 日～令和 5 年 12 月 13 日まで 参加数：990 人 スタンプ押印数：3,256 人</p>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	2,000	アウトドアコンテンツに取り組む当圏域の観光プレイヤーとの連携のもと、当該コンテンツへの誘客と、その魅力発信のため、地元 YouTuber による情報発信を行うとともに、アウトドアアクティビティを体験するイベントを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>管内の観光資源の魅力を発信するため、代表的なアクティビティであるトレッキングイベントに地元人気 YouTuber を招聘し、その体験動画を当該 YouTuber のチャンネルで配信した。 フォロワー：140 万人 配信回数：1 回（視聴数：3 万回）</li> <li>釣りやマリンスポーツなど海を中心としたアウトドアアクティビティのほか、多様な体験コンテンツに関する動画を地元人気 YouTuber のチャンネルで配信した。 フォロワー：10 万人 配信回数：4 回（視聴数：気仙沼夏編 2.2 万回、気仙沼冬編 2.6 万回、南三陸夏編 1.6 万回、南三陸冬編 1.9 万回）</li> </ul>	○
スタッフブログ「南三陸&気仙沼を体感！」来て見て浜ライン”」	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	気仙沼・本吉地域の復旧・復興情報や見所、イベント情報などについて、取材を通じて情報収集し、ブログにより情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>気仙沼・本吉地域で活躍する人材にスポットを当てて取材し、情報発信を行った。 投稿数：1 件</li> </ul>	○
インターネット広報事業	広報課	4,734	ウェブサイト、Facebook、メールマガジン等の特性を活かし、県政ニュースや各種イベント、宮城の魅力、観光情報等を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブサイトは、県政ニュース等を掲載するニュースクリップを年間 72 件掲載した。また、トップページ上段の大バナー及びページ中段の事業 PR バナーにおいて年間 21 件の県政情報を掲載した。</li> <li>Facebook は、年間 470 件投稿し、フォロワー数は 165 人増の 13,793 人となった。</li> <li>メルマガ・みやぎは、年間 48 回配信し、年度末の登録者数は 6,076 人となった。</li> </ul>	○
宮城県戦略的魅力発信事業	広報課	21,265	県内外に向け、宮城の様々な魅力を総合・横断的に広報する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国放送網のテレビを活用したパブリシティにより、宮城の様々な魅力を発信し、4 企画の露出を獲得した。また、宮城の魅力を紹介するショート動画 38 本を SNS で公開し、若年層を中心に幅広い世代に訴求を図った。</li> </ul>	○
交流人口拡大による被災地活性化事業	復興支援・伝承課	6,000	東北観光推進機構と連携し、マーケティング等を行い、東北 DMP を活用し誘客を見据えた現状分析と今後の被災地に交流人口を増やしていくための戦略の構築、既存ツールに震災伝承を切り口としたコンテンツの追加に加え、関係者のモニターツアーの実施や満足度調査の実施等に取り組むことで磨き上げを行い、継続的に人を呼び込むことができる仕組みの構築を目指し、その後のプロモーションにつなげていくもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北 DMP や CRM システムを活用したマーケティングとモデルコースの造成 対象地域：気仙沼・南三陸エリア、石巻・松島エリア、仙台・名取エリア、県南エリア</li> <li>モニターツアーとその後のアンケート調査による磨き上げの実施</li> <li>東北観光推進機構ウェブサイトにおいて情報整備及び CRM 記事発信を実施したほか、特設サイトや「じゃらん」とタイアップしたパンフレット作成を行った。</li> </ul>	○
震災伝承教育旅行受け入れ体制強化事業	復興支援・伝承課	2,886	教育旅行や企業研修等、県外からの誘客受け入れ態勢を構築するため、県内伝承団体の PR ツールの作成やデータベース化等を行うもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内伝承団体等へのヒアリングを実施し、教育旅行等のニーズを踏まえた受入先の磨き上げを行うとともに、団体毎の実施プログラムの特色や対象等をまとめたタリフ表を作成したほか、教育旅行等誘致プロモーションでの発信を行った。 今年度実施地域・ヒアリング実施箇所数：仙台地区 4 箇所 プロモーション実施数：1 回</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
首都圏向け情報発信事業	東京事務所	— (非予算)	主に首都圏をターゲットに観光地などに関する情報を発信するとともに、首都圏開催の本県関連イベント等の情報を適宜発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏開催の各種イベントやメディア向け記者会見、企業訪問等の場で、積極的に観光情報の発信を行った。また、東京事務所ホームページと各 SNS を活用し、宮城県内及び首都圏で開催される本県関連イベント等についてタイムリーに情報発信を行った。</li> <li>Facebook 及び Instagram での情報発信 126 件</li> </ul>	○
仙台空港地域連携・活性化事業	空港臨空地域課	16,580	若者を対象とした、仙台空港を発着する旅行費用の一部を助成するキャンペーンを実施し、アウトバウンド促進など仙台空港の利用拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者を対象にした航空券費用の一部助成や、仙台空港の路線プロモーションを実施し、アウトバウンド促進など仙台空港の利用拡大を図った。</li> <li>助成対象者：30 歳未満</li> <li>助成額：国内線 費用負担 1 万円以上で 5 千円助成</li> <li>国際線 費用負担 5 万円以上で 1 万円助成</li> <li>・助成件数：国内線 993 名</li> <li>国際線 80 名</li> <li>・全世代を対象とした仙台空港の路線認知度を高めるプロモーションを実施し、旅行機運の醸成を図った。</li> </ul>	
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	2,479	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介パネル展 10 回</li> <li>・小中学生向けイベント 4 回、参加 34 人</li> <li>・講演対応 9 件（参加者 537 名）</li> <li>・公式 SNS による情報発信（フォロワー 696 人）</li> <li>・文化財亚克力スタンドカプセルトイ 1,400 個（販売 880 個）</li> <li>・ハンドブック製作 500 冊（販売 161 冊）</li> <li>・文化財カード製作 800 枚（配布は R6 から）</li> </ul>	○

## (2) 東北各県や東北観光推進機構等と一体となった広域周遊観光の促進

(単位:千円)

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
観光誘客推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	72,028	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みやぎ応援ポケモン」ラプラスを活用した事業のほか、コンテンツツーリズム促進のためのマップ作製、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。</li> <li>「ラプラス+海巡り」 エントリーユーザー数 1,308 人</li> <li>「阿武急 ラプラス&amp;ラッキートレインでGO! アブQからの挑戦状」 参加者数 892 人</li> <li>「仙台・宮城アニメ・漫画ゆかりの地探訪MAP」(せんだい・宮城フィルムコミッションと共同製作) 発行部数 30,000 部</li> <li>宮城県公式 SNS 運営 Instagram 投稿数 233 (フォロワー数約 7400 人増)</li> </ul>	○
外国人観光客誘致促進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	56,206	外国人観光客の誘客回復のため、トップセールスや旅行博出展等を実施するほか、台湾、中国のサポートデスクを活用し、セールスコールや招請事業等を一体的に行う。併せて、SNSによる情報発信を各市場に対し一元的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客誘客事業</li> <li>仙台市との共同で大台南国際旅行博 (R5.11.17~11.20) に出展し、入場者数はコロナ前を上回り 15 万人となった。</li> <li>・現地誘客促進事業</li> <li>台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、ウィズコロナ、アフターコロナにおける速やかな誘客の回復及び更なる誘客促進を図った。</li> <li>・誘客促進情報発信事業</li> <li>本県が管理する海外向け公式 SNS を一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は 494 本。合計フォロワー数は約 29 万人となった。</li> <li>・台湾現地旅行会社等招請事業</li> <li>台湾の教育機関や旅行会社及び欧米の外国人を対象とした招請を行った。(招請者数 43 名)</li> <li>このうち、台湾全域の学校の教育旅行実施に強力な影響力を有する高級中等以下学校国際教育交流連盟の関係者については、同連盟 11 エリアのうち 4 エリアの処長を含む約 20 名を招請し、同連盟との間で教育旅行促進に係る覚書を締結することで合意した。</li> </ul>	○
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内観光向けには、SNSの投稿キャンペーンやサービスエリアでの合同ブース出展等を行った。</li> <li>海外観光向けには、旅行会社 2 社を招請し、両県のトレッキングコース等を巡るツアーが 2 本造成された。</li> </ul>	○
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光戦略課 (観光プロモーション推進室)	2,199	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北 3 県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイから東北への国際定期路線再開に向けたプロモーション事業</li> <li>＜タイのインフルエンサー招請事業＞</li> <li>媒体接触者数 約 130 万人</li> <li>＜タイ旅行博出展事業＞</li> <li>ブース来場者数 18,702 人</li> <li>＜タイ旅行会社招請事業＞</li> <li>造成ツアー 17 本</li> <li>造成ツアー送客数 241 人</li> </ul>	○

事業名	担当課 (R5 担当課)	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	観光戦略課 (観光政策課・観光プロモーション推進室)	18,500	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北が一体となった観光プロモーションの展開などの取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北観光推進機構において、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ東北・新潟域内の観光需要の早期回復を目的に、関係団体と連携したプロモーション等を実施した。</li> <li>東北の新しい旅行スタイル創出プロジェクト「Base!TOHOKU」の実施</li> <li>台湾で東北PRイベント「日本東北遊楽日」を実施</li> </ul>	○
「宮城・山形・福島」南東北三県観光展開催事業	大阪事務所	108	南東北三県が連携して、地域の魅力を周知し、一層の誘客促進を図るため、大阪市内において観光PRを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>南東北三県の大阪事務所が連携し、以下のとおり観光PRを実施した。</li> <li>ディアモール大阪ディーズスクエアでの観光物産展</li> <li>&lt;実施日&gt;令和6年1月28日(日)</li> <li>&lt;場所&gt;ディアモール大阪ディーズスクエア</li> <li>&lt;内容&gt;観光案内、ポスター・パンフレットの掲示、県産品の販売</li> </ul>	
東北六県観光展開催事業	大阪事務所	150	東北六県が連携し、東北の魅力等を積極的かつ集中的に提供することにより、一層の観光誘客の促進を図るため、観光案内、ポスター・パンフレットの掲示、民芸品等の展示、DVD放映、ゆるキャラによるPR及び東北旅行・特産品プレゼントなどを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北六県の大阪事務所が連携し、以下のとおり観光PRを実施した。</li> <li>ディアモールディーズスクエアでの観光物産展</li> <li>&lt;実施日&gt;令和5年10月22日(日)、23日(月)の2日間</li> <li>&lt;場所&gt;ディアモール大阪ディーズスクエア</li> <li>&lt;内容&gt;観光案内、ポスター・パンフレットの掲示、クイズラリー・特産品プレゼント</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,261	<p>仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。</p> <p>(1)食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR</p> <p>(2)広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等</p> <p>(3)みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <p>(4)みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</p>	<p>・仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。</p> <p>①食のブランド化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域をくまなく周遊するよう、参加39店舗を3つのエリアに分け、各エリアでおくずかけ、そば、ラーメン等指定メニュー1品を購入することで応募できる「押し麺キャンペーン」を、3県連携広域周遊促進事業と同時期（9月1日～12月17日）に実施した。応募総数185件、総シール数1,317枚</li> <li>・3県（山形、福島）連携マルシェ（11月3、4日）の実施（来場者数約9,000人）</li> <li>・管内道の駅と連携したスイーツマルシェを年4回開催（5、6、10、2月）</li> <li>・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨4社6品目、推奨品目数81品目）とともに、リーフレットやシール、POPによる販売促進を実施した。</li> <li>・スイーツマルシェ、道の駅等で「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」販売促進</li> </ul> <p>②広域観光・食と物産情報の発信強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、Instagramフォトキャンペーンを実施し、年度末フォロワー数がXで約1.4万人、Instagramで約1,100人に増加した。</li> <li>・「ひなの郷せんなん」として、リーフレットにより管内及び福島県のひな祭りイベントの紹介と周遊モデルコースを提案した。</li> </ul> <p>③みやぎ蔵王温泉郷振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を4施設制作し、SNSで発信した。</li> </ul> <p>④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計3回開催</p>	○
仙南アドベンチャーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	930	<p>子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信を実施した。</li> <li>2か所のキャンプ場を会場に、キャンプ初心者親子向けのモニターイベントを3回実施した。</li> <li>・1泊2日のキャンプ 川崎町 9月23日～24日 7組24人</li> <li>・日帰りのキャンプ場遊び 川崎町 10月14日 9組29人</li> <li>・日帰りのキャンプイベント 丸森町 10月15日 9組28人</li> </ul>	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	2,848	〃仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2)独自企画 秋冬周遊企画 (3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業	・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。 ①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2023」(R5.7～9月)を実施。応募総数1,039通 ②押し麺キャンペーン(再掲) ③大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業 ・みやぎ蔵王三十六景サイクルスタンプラリーへの商品提供 ・R5.12.28 村田町での初心者体験ライドにおいて、参加者への補給食等の提供や観光PRを実施(参加者27名)	○
3県(宮城・山形・福島)連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	近年、東北中央道の開通等により、南東北3県(宮城仙南・山形置賜・福島県北)の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力を多くの方に知ってもらい、3県の相互交流を促進するため、各地域の特産であるフルーツや食材を使用したスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3県の計30店舗を周遊して、各地域の特産であるフルーツを使用したスイーツを4品以上購入することで応募可能となる「至福のフルーツスイーツビンゴラリー」を9月1日から12月17日まで開催した。 応募総数110件 総シール枚数1,296枚(参加者1人当たりのシール枚数11.8枚)の応募があった。	○
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	996	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を越えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の連続講座を6コマ開催した。 ①②「インバウンド・観光概論」10/18開催 12人参加 ③④「観光トレンド・情報発信施策づくりワークショップ」 11/7開催 21人参加 ⑤⑥「アルベルゴ・ディフーズまちづくり交流会」 12/7開催 36人参加	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
仙山交流連携促進事業	仙台地方振興事務所	560	文化面・交通面での結びつきが強い宮城県仙台地域及び山形県村山地域合同の特産品販売会等を支援するとともに、両地域の魅力を発信することで、両地域の相互交流をさらに深める。	①両地域間の周遊促進を目的とし、仙台・県南浜街道地域、山形・西村山地域の計11市町を対象とした「仙山交流スイーツスタンプラリー」を7月15日から3ヶ月間開催した。 ドライブスタンプラリー参加者数：889名 家たびスタンプラリー参加者数：602名 ②仙山交流連携の促進に向け、歴史・文化をテーマにした内容で関係者による事例発表を行う、仙山交流連携促進会議を東北歴史博物館で行った。 会議参加者 仙台・村山管内市町村職員等38名 ③10月11日、12日に勾当台公園市民広場で、両地域の産物を一堂に集め、生産者自ら直接販売を行う、「仙山交流味祭 in せんだい」を開催した。（主催は民間団体。当所は広報等の側面的支援を実施。） 出店者数：21店舗 延べ来場者数：4,500名	○
最上・雄勝・大崎三県連携交流事業	北部地方振興事務所	664	大崎地域と山形県最上地域・秋田県雄勝地域との県境を越えた広域的な取組として、三地域合同の観光PRイベント等を開催する。	・Instagram「東北のへそ」を活用して、「東北のへそ」フォトコンテストを開催し、東北のへそ地域の魅力発信と誘客を促進し、交流人口の拡大を図った。 ・東北のへそ三県交流まつりを勾当台公園市民広場で開催し、東北のへそ地域の観光・物産・郷土文化等の魅力ある地域資源の情報を発信し、誘客促進を図った。 ・仙台市、福島県内等の旅行エージェントを訪問し、東北のへそ地域への誘客を図った。	
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県北地域部会事業	北部地方振興事務所	943	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県北地域部会の事務局として、関係市町や観光関係団体等と連携しながら、地域あるいは地域を越えて連携した観光施策を主体的に実現させ、地域の活性化に資するための継続した観光の仕組みづくりを行う。	・Instagram「よききたみやぎ」を活用した情報発信を実施した。 ・誘客対策のため、9月と11月にモニターツアーを実施し、うち1行程が「伊達なバス旅(2024.4～9)」の商品として採用された。 ・気仙沼市内のDMOを訪問し、研修を実施した。	
岩手・宮城県際広域観光推進研究会による情報発信事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所・東部地方振興事務所登米地域事務所・気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	岩手県と宮城県の県際地域における広域観光の推進を図るため、「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」に参画し、観光案内所等におけるパンフレットの相互配架、広域パンフレットの作成等を行う。	・意見交換や現地視察等を行う研究会を2回開催した。 ・当該地域の観光・物産・郷土文化等の情報発信と誘客促進を目的とした「県際マルシェ」を開催した。 ・当該地域の観光地情報等を協力して発信した。	○
栗駒山麓広域連携事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	— (非予算)	栗駒山を共通の観光資源とする岩手県、秋田県と連携し、栗駒山麓の登山マップや広域観光パンフレットの作成、配架等を行う。	・栗駒山トレッキングMAPや、各県事務所のイベントに関するポスター・パンフレットを相互に配架した。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
デジタルスタンプラリー事業	気仙沼地方振興事務所	610	観光客の滞留性・周遊性の向上を図るため、岩手県大船渡地域振興センターと連携し当圏域（気仙沼市、南三陸町）及び大船渡圏域の観光施設等に設置するポイントをめぐるデジタルスタンプラリー事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>三陸沿岸道路の観光スポット等に設置したラリーポイントをめぐるデジタルスタンプラリーを実施し、獲得したポイント数に応じて当圏域及び釜石市、大船渡市、陸前高田市などの地域の産品を賞品として贈呈した。</li> <li>実施期間：令和5年9月15日～令和5年12月13日まで</li> <li>参加数：990人</li> <li>スタンプ押印数：3,256人</li> </ul>	○
交流人口拡大による被災地活性化事業	復興支援・伝承課	6,000	東北観光推進機構と連携し、マーケティング等を行い、東北DMPを活用し誘客を見据えた現状分析と今後の被災地に交流人口を増やしていくための戦略の構築、既存ツールに震災伝承を切り口としたコンテンツの追加に加え、関係者のモニターツアーの実施や満足度調査の実施等に取り組むことで磨き上げを行い、継続的に人を呼び込むことができる仕組みの構築を目指し、その後のプロモーションにつなげていくもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北DMPやCRMシステムを活用したマーケティングとモデルコースの造成</li> <li>対象地域：気仙沼・南三陸エリア、石巻・松島エリア、仙台・名取エリア、県南エリア</li> <li>モニターツアーとその後のアンケート調査による磨き上げの実施</li> <li>東北観光推進機構ウェブサイトにおいて情報整備及びCRM記事発信を実施したほか、特設サイトや「じゃらん」とタイアップしたパンフレット作成を行った。</li> </ul>	○
震災伝承教育旅行受け入れ体制強化事業	復興支援・伝承課	2,886	教育旅行や企業研修等、県外からの誘客受け入れ態勢を構築するため、県内伝承団体のPRツールの作成やデータベース化等を行うもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内伝承団体等へのヒアリングを実施し、教育旅行等のニーズを踏まえた受入先の磨き上げを行うとともに、団体毎の実施プログラムの特色や対象等をまとめたタリフ表を作成したほか、教育旅行等誘致プロモーションでの発信を行った。</li> <li>今年度実施地域・ヒアリング実施箇所数：仙台地区4箇所</li> <li>プロモーション実施数：1回</li> </ul>	○
「東北文化の日」推進事業	消費生活・文化課	1,004	東北全体の文化力の発揮を目指すとともに文化施設を基点として圏域内外の交流人口の拡大を図るため、東北6県及び仙台市が一体となり東北圏域の特色ある文化資源の情報を総合的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北6県及び仙台市が中心となり、ガイドブックやポスター、HPを通じて、東北県内の市町村及び文化施設等のイベント広報を行った。</li> <li>「東北文化の日」令和4年10月29日（土）、30日（日）</li> <li>関連イベント開催期間 令和4年10月29日（土）から11月27日（日）まで</li> <li>施設数 218施設</li> <li>イベント数 243イベント</li> <li>総参加者数 374,774人</li> </ul>	○
高規格幹線道路網の整備推進事業	道路課	1,060,000	観光・産業振興、地域間交流の活性化等を図るため、東北・県土の骨格を形成する高規格幹線道路網の機能強化・利便性向上を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北自動車道の菅生スマートICが供用開始した。</li> </ul>	
仙台空港周辺の道路改善事業	道路課	276,200	仙台空港を東北の「空の玄関口」として発展させるため、空港周辺の道路改善などにより機能強化を図り、交流人口の拡大を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>名取市笠島地内等の交差点改良などを推進した。</li> </ul>	
仙台空港600万人・5万トン実現推進事業	空港臨空地域課	12,691	LCC等の航空会社と連携し、航空機の利用促進を図り、新型コロナウイルスで落ち込んだ航空需要の回復及び新たな需要の掘り起こしを行うほか、仙台空港からの航空貨物取扱量増加に向けた核となる商材の掘り起こしなどを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>仙台空港に就航しているLCC・ピーチ・アビエーション及びRJ・アイベックスエアラインズ、フジドリームエアラインズと連携しプロモーションを実施した。</li> <li>仙台国際空港（株）への業務委託により「仙台空港貨物便産地直送フェア」を開催し、航空貨物輸送における商材ニーズの把握や課題の調査・分析を行った。</li> </ul>	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和5年度実施状況	再掲
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	7,150	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史講座等を開催し、延べ350人の参加により多賀城跡の理解促進につながった。</li> <li>・多賀城跡の三次元地形測量を実施し、地形図を作成したほか、三次元データはデジタルマップの制作など多方面での活用が可能となった。</li> </ul>	○

成長戦略4 合計 61事業 5,178,962千円

## 6 基本計画の実施状況の検証

### (1) 数値目標の達成状況

- 令和5年の「宿泊観光客数」は943万人泊で、前年と比較し165万人泊の増加(21.2%の増加、数値目標(回復目標)比95.3%)となったほか、「外国人観光客宿泊者数」は、50.7万人泊で、前年と比較し44.8万人泊の増加(759.3%の増加、数値目標(回復目標)比101.4%)、「観光消費額」は3,985億円で、868億円の増加(27.8%の増加、数値目標(回復目標)比99.9%)となり、徐々に、令和6年の回復目標として定めた感染症感染拡大前の令和元年水準まで回復傾向にある。

### (2) 具体的な取組状況

- 震災から13年目となった令和5年度は、「新・宮城の将来ビジョン」(以下「ビジョン」という。)の3年目に当たり、ビジョンで掲げた取組の一つである「宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興」を推進するため、287事業を積極的に展開した。
- 具体的な取組については、全国旅行支援等の需要喚起策を切れ目なく実施するとともに、中小企業等再起支援事業による事業者支援をはじめ、原油価格高騰等の影響を受けている県内遊覧船運営事業者等への支援金交付や宿泊・交通を組み合わせた旅行商品造成に係る補助を行うなど、事業継続支援に取り組んだ。
- 国内観光客向けには、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会と連携し、閑散期対策として秋・冬キャンペーンを開催したほか、みやぎ応援ポケモンである「ラプラス」を活用したスタンプラリー等の周遊施策を企画する等、積極的な誘客プロモーションにより県内周遊の促進を図った。また、教育旅行等コーディネート支援センターを運営し、来県希望者と受入施設とのマッチングを支援したほか、教育旅行バス助成金を交付し、教育旅行の誘致促進を図った。
- 外国人観光客向けには、無線LAN機器の設置や外国語表記の整備等への支援を行い、受入環境整備の充実に取り組んだほか、各海外市場ごとの訴求テーマを分析し、多言語ウェブサイト「VISIT MIYAGI」等のデジタルを活用した効果的なプロモーションを展開した。また、韓国済州島発祥のトレーニングコース「オルレ」については、令和5年11月11日に県内5コース目となる村田コースを開設したほか、済州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、更なる誘客促進に向けたPRを実施した。加えて、台湾の教育関係者等を招請し、今後の台湾からの教育旅行の誘致強化のため、宮城県の魅力をPRする機会を創出した。
- 観光客へのアンケート調査を通して、東京電力福島第一原子力発電所事故の風評被害の実態把握に努めたほか、東日本大震災の風化防止のため、震災の伝承施設を紹介する多言語対応の冊子等を製作し、震災の教訓の伝承に取り組んだ。

### (3) 今後の取組方針

- 現在の観光業を取り巻く環境は、令和5年5月に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に移行したことや、仙台国際空港国際線定期便の順次再開により、訪日旅行者の増加や国内観光客の移動が活発になるなど、観光需要が高まっている状況にある。
- このような中で、県としては、第5期みやぎ観光戦略プランで定めた基本方針である持続可能な観光地域づくりに向け、地域資源を活用した観光コンテンツの造成、通訳ガイド等の観光人材の育成、自然公園施設の整備等の受入環境整備を強化するほか、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北一体となった誘客プロモーションに取り組んでいる。
- 令和6年度は、第5期みやぎ観光戦略プランの最終年度に当たることから、数値目標の達成やポストコロナにおける観光地としての競争力を高めるために、観光地の受入環境整備のほか、市町村や関係団体と連携した誘客プロモーション等の施策を着実に実施し、更なる誘客促進を図っていく。